PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回 3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III. アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV. PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI. オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III. アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV. PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI. オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶/PLATEAUコンソーシアム設立について

（一社）社会基盤情報流通推進協議会（AIGID） 関本事務局長

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/
第1回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

PLATEAU
by MLIT

PLATEAUコンソーシアム設立について

都市デジタルツイン実装プロジェクト | Project PLATEAU

主催者概要

団体名	**一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会** （通称：AIGID）
活動の目的	• 産官学の関係機関が連携して、社会インフラに関わる情報の収集・配信・利活用等の流通環境の整備
設立	• 2011年9月　任意団体 「社会基盤情報流通推進協議会」を設立 • 2014年4月　一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会として活動をリ・スタート
活動内容	• G空間情報センター 　✓ 社会基盤情報をワンストップで検索・入手可能なデータ流通プラットフォーム • デジタルシティサービス 　✓ 自治体を基本単位に行政データや3D都市モデルなど様々なデータをG空間情報センター上で保管、可視化やAPI提供等を行うサービス • アーバンデータチャレンジ 　✓ 地域課題解決を目的とし、地方自治体を軸にした公共データの活用を促進するイニシアティブ • MyCity シリーズ 　✓ MCR（オンライン型電子納品システム）、MCR（市民協働投稿サービス、AIによる道路損傷検出サービス）、MCF（都市計画策定のシミュレーション）
組織体制 （2023年10月1日現在）	• 代表理事　関本　義秀 • 幹事会員　15社 • 一般会員　5社

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

設立の背景　ーPLATEAUの目指すエコシステムー

3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化が自律的に発展していく「エコシステム」の構築を目指します。

- 3D都市モデルを活用した魅力的なサービスを開発し、これを社会に実装していくことで、都市生活のWell-Being（一人ひとりの多様な幸せ）を実現していくことが重要。
- そのためには、国のみがイニシアティブをもった取組みでは不十分。産学官のプレイヤーがそれぞれイニシアティブを持ち、持続可能な形で3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化にコミットしていく必要がある。
- このため、国、地方公共団体、企業、大学等の研究機関、地域コミュニティなどのプレイヤーそれぞれの役割を明確化し、持続的に役割を果たしていく体制構築が必要。
- 次期PLATEAUでは、Phase02として、産学官が連携してPLATEAUを推進していく新たな体制＝PLATEAUエコシステムの構築を目指していく。
- 国は、Phase01で実施してきた基幹的施策を継続・拡充しつつ、各主体がイニシアティブを持ちそれぞれの役割を果たしていけるよう、環境整備施策を推進していく。

国によるPLATEAUを駆動させていくための基幹的施策

データ・カバレッジ拡大	ユースケース開発 ＋	コミュニティ形成
サービス実装	地域のデジタルケイパ向上	オープン・イノベーション創出

エコシステム構築

国による各主体の役割を円滑化・促進する環境整備施策

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

設立概要

団体名

PLATEAUコンソーシアム

（正式名称:3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化促進に関する産学官連携協議会）

活動の目的

- 産学官の連携を更に促進することで、3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化のエコシステムを構築する。

設立の背景

- 2020年度に設置された「3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会」は、産学官連携の場として「スマートシティ官民連携プラットフォーム」配下の分科会として設置され、都市局が事務局を担ってきた。
- 他方、プラトーの取組みは4年目を迎え、データ活用の技術や産業領域はスマートシティの枠組みを超えて拡大している。
- また、当初は国土交通省のリーディング・プロジェクトとしてスタートしたプラトーは、徐々に企業、大学等の民間団体が地方公共団体や政府とフラットに連携して進める取組みに移行しつつある。
- プラトーのエコシステム構築をさらに促進していくため、産学官の連携の場も民間がイニシアティブを持つ自律的な取組みとすべく、分科会を改組し「PLATEAUコンソーシアム」を設立する。

活動内容

- 幅広い事業者・団体から会員を募り、産学官の技術開発やユースケース開発の成果報告などの情報共有やコミュニケーションを支援
- ユーザー（事業会社や自治体）のニーズとソリューションカンパニー（ベンダーやコンサル）や大学・研究機関のシーズのマッチングを促進
- プロジェクト活動によって生まれた成果物（データ・OSS等）の共有、発信、相互活用の促進
- 技術開発やユースケース開発、データ利用環境整備等の今後の取組の方向性についての討議

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化促進に関する産学官連携協議会 規約（2023年12月15日決定予定）

（名称）
第1条 本協議会は、「3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化促進に関する産学官連携協議会」（以下「本会」という。）と称する。

（目的）
第2条 本会は、3D都市モデルの取組に関心を有する地方公共団体、民間企業、大学等による協力体制を構築し、情報共有、課題解決、技術交流等を図ることで、産学官が連携した3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化のエコシステムを構築することを目的とする。

（活動内容）
第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる活動を行う。
一 3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化の社会実装に資する活動
二 会員間で共通する課題に対する解決策等の検討に関する活動
三 会員等間の課題・研究・技術・開発等の情報共有、相互啓発、連携強化に関する活動
四 3D都市モデル整備・活用・オープンデータ化の促進における取組や創出されたサービス等における全国及び海外への情報発信、展開・普及に関する活動
五 その他本会の目的を達成するために必要な活動

（会員等）
第4条 本会は、本会の目的に賛同し、本規程を順守する以下の会員等をもって組織する。
一 3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化に取組中又は関心のある地方公共団体
二 3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化に取組中又は関心のある企業又は団体
三 3D都市モデルに知見を持つ大学、有識者、研究者、研究機関等
四 3D都市モデルに関心を持つ関係府省庁
五 その他の個人又は団体
2 本会への加入を希望する者は届出により入会・退会することができる。
3 会員等が次の各号のいずれか又は全てに該当する場合、その会員を除名することができる。
一 本規程に違反又は本会の信用を著しく害したとき
二 会員等が解散又は営業を停止したとき
三 暴力団等反社会的勢力と関係があることが判明したとき
四 その他本会の運営に当って重大な支障が生じると認められたとき

（アドバイザリーボード）
第5条 本会に会員の一部により組織されたアドバイザリーボードを設置する。
2 アドバイザリーボードは本会の活動に関し学術的見地から助言を行うものとする。
3 アドバイザリーボードには必要に応じて会員以外の者の出席を求めることができる。

（ワーキンググループ）
第6条 活動の必要に応じて、本会に会員の一部により組織されたワーキンググループ（以下「WG」）を設置することができる。
2 本会の会員は、WGの設置を提案できる。
3 WGの設置について事務局は助言を行うことができる。
4 WGには必要に応じて会員以外の者の出席を求めることができる。
5 その他の事項については、本規程と別に定める「ワーキンググループ規程」によるものとする。

（事務局）
第7条 本会に、事務を処理するための事務局を置く。
2 事務局の事務は一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会が処理する。

（免責事項）
第8条 会員等が共有した情報等により会員等または第三者が損害を被った場合、事務局は当該損害に対して一切責任を負わない。
2 事務局は、会員等が共有した情報の内容、品質、安全性、適法性又は有用性等について保証を行わず、情報等に瑕疵があった場合でも、一切責任を負わない。
3 事務局は、事務局が運営する本会のホームページの情報が原因で会員等が不利益を被った場合でも、一切責任を負わない。

（規程の制定改廃）
第9条 本規程の制定改廃は、事務局が会員と協議の上行い、制定または改廃した場合においては、直ちに会員に通知する。

（雑則）
第10条 この規程に定めるもののほか、本会の運営に関して必要な事項は、事務局にて定める。

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化促進に関する産学官連携協議会 ワーキンググループ規程（2023年12月15日決定予定）

（趣旨）
第1条 この規程は、3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化促進に関する産学官連携協議会規約第6条の規定に基づき設置されるワーキンググループ（以下「WG」）に関し必要な事項を定める。

（目的）
第2条 WGは3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化促進に関する産学官連携協議会（以下「本会」という。）の会員間で共通する課題に対する解決策等の検討に関する活動等を行うことを目的とする。

（設置期間）
第3条 WGの設置期間は原則として、設置日から当該年度末とする。

（活動計画）
第4条 WGの設置又は設置期間の延長を希望する会員は、年間の活動計画を所定の書式で本会事務局（以下「事務局」という。）に提出する。

（活動報告）
第5条 WGは、当該年度末までに、活動報告を所定の書式で事務局に提出する。

（WG構成員）
第6条 WGの構成員（以下「WG構成員」という。）は、会員とオブザーバーから組織する。
2 WG構成員の募集に当っては、設立時を含め会員に対して十分な告知を行うものとし、事務局が特にWG活動に悪影響を及ぼすと判断した場合を除き、会員は参加を阻まれない。
3 WG構成員は、いつでもWGを退会することができる。ただし、退会後も第9条を遵守する。

（費用）
第7条 会議等に要する費用はWG構成員の負担とする。

（成果の報告）
第8条 WGの活動により生じたアイデア、知見その他の成果（以下「検討成果等」という。）がある場合、WGは随時事務局へ報告する。

（秘密保持）
第9条 WG構成員は、WGの活動において知得した他のメンバーの技術的な情報及び相互の接触交流により知り得た他のメンバーの秘密を第三者に開示又は漏洩をしてはならない。ただし、事前に相手方の同意を得た場合はこの限りでない。

（検討成果等の取扱い）
第10条 WGの活動計画、活動報告及び検討成果等は、事務局を通じ、会員に共有され、会員及び事務局は検討成果等を自由に利用することができる。
2 前項の規定にかかわらず、検討成果等に、技術的な開発成果等他の会員に共有することが望ましくない知見及び情報等が含まれるとWGが判断した場合、WGは、事務局と検討成果等の取扱いについて協議する。
3 WGは、検討成果等について知的財産権（特許、意匠、実用新案、商標及び著作権を含む。）に関する出願等を検討する場合、予め事務局に当該内容を報告し、取扱いについて協議する。

（規程の制定改廃）
第11条 本規程の制定改廃は、事務局が会員と協議の上行い、制定または改廃した場合においては、直ちに会員に通知する。

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

PLATEAUコンソーシアムの構成

協議会

主催	**一般社団法人 社会基盤情報流通推進協議会** （事務局長：東京大学 空間情報科学研究センター副センター長 関本義秀 教授）
参加	地方公共団体/民間企業/大学・研究機関/関係省庁
運営協力	国土交通省都市局

アドバイザリーボード（有識者会）

※詳細後述

例）自治体WG

概要	自治体の課題の討議、ニーズを踏まえたマッチング支援等
参加	公共ユーザー部門/ソリューション部門 等

例）ビジネスWG

概要	民間の課題の討議、BtoBマッチング支援、スタートアップ支援等
参加	民間ユーザー部門/スタートアップ部門/ソリューション部門 等

例）標準化検討WG

概要	国際標準規格CityGMLの国内普及、国際貢献に向けた討議等
参加	デベロッパー部門/アカデミック部門 等

ワーキンググループ　※必要に応じて設置

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

PLATEAUコンソーシアムの運営方法

協議会

- 定例会を四半期に1回程度開催
- 全会員が参加

活動計画の事前報告/活動結果の報告

活動計画/活動結果への意見

WG①　WG②　WG③

- 年2回程度(WGにより増減あり)開催
- 関心を有する会員が参加

※2024年度は自治体WG、ビジネスWG、標準化検討WGの提案あり

定例会の総合討議等の場で学術的見地から助言

アドバイザリーボード

- 定例会にあわせた開催が基本
- 学識経験者で構成

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

PLATEAUコンソーシアム設立について

会員概要

会員部門

分類	部門
公共	**公共ユーザー部門** PLATEAUのソリューションを用いた地域の課題解決、政策改善、DX等に関心のある公共団体
民間	**民間ユーザー部門** PLATEAUのソリューションを用いたビジネス創出、ビジネス改善、DX等に関心のある民間団体
	スタートアップ部門 PLATEAUを用いた新規事業創出等に関心のあるスタートアップ
	ソリューション部門 PLATEAUのデータを用いた新たなソリューション開発やビジネスモデル創出等に関心のある団体
	デベロッパー部門 PLATEAUのデータ整備に関する技術開発や品質改善等に関心のある団体
	グローバル部門 PLATEAUのデータやソリューションの海外展開やこれを用いた海外都市開発等に関心のある団体
	インベスター部門 PLATEAUを用いたビジネスシーズを投資機会等としたい個人又は団体
学識	**アカデミック部門** PLATEAUを用いた教育、研究、学生活動等に関心のある学識者又は団体

- PLATEAUコンソーシアムでは、会員の多種多様な関心により解像度高く応えるため、新たに「会員部門」制度を設けます。
- 入会を希望される際には、8つの部門から自らの関心領域を選択していただきます。
- コンソーシアムでは、部門ごとに適した会議体やイベント等を実施予定です。
- 例えば、地方自治体の課題を解決するために、課題の主体である「公共ユーザー部門」と解決策提供主体である「ソリューション部門」からなるニーズ・シーズのマッチングイベントを実施することなどを予定しています。

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

PLATEAUコンソーシアム設立について

会員一覧 ※12/14現在312会員

公共ユーザー部門

北海道・東北 北海道札幌市 / 北海道室蘭市 / 北海道帯広市 / 北海道北広島市 / 北海道更別村 / 青森県青森市 / 青森県むつ市 / 岩手県盛岡市 / 宮城県仙台市 / 宮城県塩竈市 / 山形県大石田町 / 福島県郡山市 / 福島県いわき市 / 福島県白河市 / 福島県二本松市

関東 茨城県鉾田市 / 栃木県宇都宮市 / 栃木県佐野市 / 群馬県前橋市 / 群馬県桐生市 / 群馬県館林市 / 埼玉県 / 埼玉県さいたま市 / 埼玉県熊谷市 / 埼玉県行田市 / 埼玉県戸田市 / 埼玉県新座市 / 埼玉県富士見市 / 埼玉県蓮田市 / 埼玉県白岡市 / 埼玉県毛呂山町 / 千葉県千葉市 / 千葉県木更津市 / 千葉県茂原市 / 千葉県柏市 / 千葉県八千代市 / 千葉県八街市 / 千葉県芝山町 / 東京都 / 東京都目黒区 / 東京都渋谷区 / 東京都杉並区 / 東京都荒川区 / 東京都板橋区 / 東京都八王子市 / 東京都調布市 / 東京都東村山市 / 東京都狛江市 / 東京都あきる野市 / 神奈川県横浜市 / 神奈川県川崎市 / 神奈川県相模原市 / 神奈川県横須賀市 / 神奈川県鎌倉市 / 神奈川県藤沢市 / 神奈川県茅ヶ崎市 / 神奈川県厚木市 / 神奈川県大和市 / 神奈川県寒川町 / 神奈川県箱根町

中部 新潟県新潟市 / 新潟県長岡市 / 新潟県加茂市 / 富山県高岡市 / 石川県金沢市 / 石川県加賀市 / 福井県坂井市 / 山梨県甲府市 / 長野県諏訪市 / 長野県伊那市 / 長野県茅野市 / 長野県塩尻市 / 長野県佐久市 / 岐阜県岐阜市 / 岐阜県高山市 / 岐阜県瑞浪市 / 静岡県 / 静岡県静岡市 / 静岡県浜松市 / 静岡県沼津市 / 静岡県熱海市 / 静岡県三島市 / 静岡県掛川市 / 静岡県菊川市 / 愛知県名古屋市 / 愛知県豊橋市 / 愛知県岡崎市 / 愛知県春日井市 / 愛知県津島市 / 愛知県刈谷市 / 愛知県豊田市 / 愛知県日進市 / 愛知県北名古屋市

近畿 三重県四日市市 / 三重県桑名市 / 三重県熊野市 / 京都府京都市 / 京都府宮津市 / 大阪府 / 大阪府大阪市 / 大阪府堺市 / 大阪府豊中市 / 大阪府池田市 / 大阪府高槻市 / 大阪府河内長野市 / 大阪府柏原市 / 大阪府摂津市 / 大阪府四條畷市 / 大阪府忠岡町 / 兵庫県 / 兵庫県尼崎市 / 兵庫県伊丹市 / 兵庫県相生市 / 兵庫県加古川市 / 兵庫県たつの市 / 奈良県大和高田市 / 和歌山県和歌山市 / 和歌山県橋本市

中国・四国 鳥取県 / 鳥取県鳥取市 / 鳥取県米子市 / 鳥取県境港市 / 島根県松江市 / 島根県益田市 / 島根県隠岐の島町 / 岡山県倉敷市 / 岡山県津山市 / 岡山県浅口市 / 広島県 / 広島県広島市 / 広島県呉市 / 広島県福山市 / 広島県府中市 / 山口県下関市 / 山口県防府市 / 山口県岩国市 / 山口県周南市 / 徳島県徳島市 / 香川県高松市 / 香川県さぬき市 / 香川県土庄町 / 愛媛県 / 愛媛県松山市 / 愛媛県八幡浜市 / 愛媛県東温市 / 高知県南国市 / 高知県香美市

九州 福岡県北九州市 / 福岡県福岡市 / 福岡県大牟田市 / 福岡県久留米市 / 福岡県飯塚市 / 福岡県宗像市 / 福岡県うきは市 / 福岡県新宮町 / 福岡県遠賀町 / 佐賀県伊万里市 / 佐賀県武雄市 / 佐賀県基山町 / 佐賀県江北町 / 長崎県佐世保市 / 熊本県熊本市 / 熊本県荒尾市 / 熊本県玉名市 / 熊本県宇城市 / 熊本県西原村 / 熊本県益城町 / 熊本県芦北町 / 大分県大分市 / 大分県日田市 / 大分県佐伯市 / 大分県臼杵市 / 大分県杵築市 / 宮崎県延岡市 / 鹿児島県薩摩川内市 / 鹿児島県南さつま市 / 沖縄県那覇市 / 沖縄県八重瀬町

国 国土交通省都市局 / 国土交通省国土地理院

民間ユーザー部門

アヴィバ(株) / (株)市浦ハウジング＆プランニング / (株)NTTアーバンソリューションズ総合研究所 / (一社)大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会 / (株)オオバ / OpenStreet(株) / 鹿島建設(株) / (株)角川アスキー総合研究所 / (株)佐藤総合計画 / (株)JR西日本コミュニケーションズ / (株)JTOWER / (株)JTB / (一社)社会基盤情報流通推進協議会 / (株)住宅性能評価センター / ダイナミックマッププラットフォーム(株) / 大日本ダイヤコンサルタント(株) / (特非)超教育ラボラトリーInc. / (株)千代田コンサルタント / (株)電通国際情報サービス / 東急不動産ホールディングス(株) / 東京建物(株) / (株)東洋設計 / (株)ドコモ・インサイトマーケティング / 日鉄興和不動産(株) / 日本航空(株) / (特非)日本PFI・PPP協会 / (株)日本旅行 / (株)ノア技術コンサルタント / (株)野村総合研究所 / (特非)バーチャルクロスリンク / 博報堂DYホールディングス / 東日本旅客鉄道(株) / 福島産業創生協議会 / (株)フジヤマ / 三菱地所(株) / (株)三菱地所設計 / 三菱電機(株) / 森ビル(株) / (一社)横浜みなとみらい21

ソリューション部門

(株)アイ・トランスポート・ラボ / アクセンチュア(株) / アルテアエンジニアリング(株) / アンシス・ジャパン(株) / (株)インフォマティクス / インフォ・ラウンジ(株) / (株)ウエスコ / ESRIジャパン(株) / NECネッツエスアイ(株) / エヌ・ティ・ティ・インフラネット(株) / (株)NTTデータ / (株)NTTドコモ / MS&ADインターリスク総研(株) / 応用技術(株) / (株)大林組 / (有)岡田商会 / (株)キャドセンター / (株)草野測器社 / KDDI(株) / (一財)計量計画研究所 / (株)構造計画研究所 / CodeforYOKOHAMA / サイバネットシステム(株) / JR東日本コンサルタンツ(株) / 清水建設(株) / スターツCAM(株) / ソニーグループ(株) / ソフトバンク(株) / SOMPOリスクマネジメント(株) / 大成建設(株) / (株)竹中工務店 / ダッソー・システムズ(株) / TIS(株) / 東亜建設技術(株) / 東邦レオ(株) / TOPPAN(株) / (株)日建設計 / (株)日建設計総合研究所 / 日本イーエスアイ(株) / 日本工営(株) / 日本電気(株) / (特非)日本不動産カウンセラー協会 / ニューラルグループ(株) / パシフィックコンサルタンツ(株) / PacificSpatialSolutions(株) / (株)パスコ / (株)パソナ / パナソニック(株) / (株)フォーラムエイト / (株)福山コンサルタント / 復建調査設計(株) / ボストン・コンサルティング・グループ合同会社 / (株)ホロラボ / MapboxJapanG.K. / (株)三菱総合研究所 / ミネベアミツミ(株) / (株)ラック / (株)理経 / (株)リコー / (株)WorldLink＆Company

スタートアップ部門

(株)アナザーブレイン / IntelligenceDesign(株) / (株)エイト日本技術開発 / (株)Gugenka / (株)PsychicVRLab / 四恩システム(株) / (株)シナスタジア / (株)SYMMETRY / (株)トラジェクトリー / (株)ナイトレイ / PLATEAUWindow's / (株)ヘキメン / (株)MIERUNE / (株)MESON / (株)Eukarya

グローバル部門

(株)StockGraphy

インベスター部門

ー

デベロッパー部門

朝日航洋(株) / アジア航測(株) / 国際航業(株) / 中日本航空(株) / (株)ナカノアイシステム / (一財)リモート・センシング技術センター

アカデミック部門

饗庭伸(東京都立大学都市環境学部 教授) / 大西鮎美(神戸大学大学院工学研究科 助教) / 門脇耕三(明治大学理工学部 准教授) / 九州工業大学 / 瀬戸寿一(駒澤大学文学部地理学科 准教授) / 寺田努(神戸大学大学院工学研究科 教授) / 古橋大地(青山学院大学地球社会共生学部 教授) / 南政樹(PwCコンサルティング合同会社 シニアマネージャー、元慶應義塾大学ドローン社会共創コンソーシアム 副代表) / 湯村翼(北海道情報大学情報メディア学部 准教授) / 吉村有司(東京大学先端科学技術研究センター 特任准教授) / 渡邉英徳(東京大学大学院情報学環・学際情報学府 教授)

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

PLATEAUコンソーシアム設立について

アドバイザリーボード概要 ※12/15現在

古橋 大地(座長)

青山学院大学
地球社会共生学部　教授

専門:空間情報

饗庭 伸

東京都立大学
都市環境学部 教授

専門:都市計画

瀬戸 寿一

駒澤大学
文学部地理学科 准教授

専門:社会地理学・
地理情報科学

南 政樹

PwCコンサルティング シニアマネージャー
(元慶應義塾大学ドローン社会共創
コンソーシアム 副代表)

専門:実空間コンピューティング

吉村 有司

東京大学 先端科学技術
研究センター 特任准教授

専門:スマートシティ・
まちづくりDX

渡邉 英徳

東京大学大学院
情報学環・学際情報学府 教授

専門: 情報デザイン

(出典)写真はPLATEAUのHP、各所属大学のHP、(独)情報処理推進機構HPより引用

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

取組内容｜自治体WG 令和6年度活動計画 （提案者：株式会社三菱総合研究所）

WGの目的	3D都市モデルの整備・活用に取り組む地方公共団体や産学の関係主体との情報共有・意見交換を行うことにより、データカバレッジの拡大、3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化の普及・拡大、地域課題解決や行政サービスの効率化・高度化等に資するユースケース開発の進展など、PLATEAUの社会実装推進につなげる。
解決したい課題	3D都市モデル整備済都市は2023年度末200都市程度に達する見込みだが今後より一層の拡大が期待される。また、地方公共団体においては様々な情報（技術、事業者、先進事例、課題・対策等）が十分に行き渡っておらず庁内外関係者での情報共有が望まれる。さらに地域課題解決や行政サービス向上等に効果を発揮する利活用の進展、社会実装が期待される。

WGでの活動内容及び期待される効果

- WGでの活動内容
  - 活動1：地方公共団体・関係者による情報共有
    地方公共団体が必要とする情報・知見について、PLATEAU過年度事業成果の蓄積や先進団体の取組事例紹介等により共有・周知する。また地方公共団体（公共ユーザー部門会員）のニーズや民間事業者等（ソリューション部門会員）のシーズを相互に紹介すること等により産学間の情報共有を図る。
  - 活動2：現状・課題、今後の取組みに関する意見交換
    3D都市モデルの整備・活用やオープンデータ化における現状・実態、直面しうる課題、現時点での対応策や、今後取り組むべき方策等について情報共有・意見交換を行う。
- 期待される効果
  地方公共団体が必要とする情報・知見を関係者間で共有し、課題や対策を協議することにより、地域・行政の実態・課題に根差した具体的・実効的な取組みが進展することが期待される。

実施スケジュール

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
地方公共団体・関係者による情報共有	関連情報の収集・整理	情報共有機会		
現状・課題、今後の取組みに関する意見交換		現状・課題等の情報収集	意見交換機会	今後の取組みの検討

連絡窓口

団体名　株式会社三菱総合研究所
担当者名　林、坂井
メールアドレス　plateau-lg@mri.co.jp

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

取組内容｜ビジネスWG 令和6年度活動計画 （提案者：アクセンチュア株式会社）

WGの目的	技術シーズやソリューション、ビジネスニーズなどを持つ事業者・技術者の交流やユースケースの活用を促進する施策の実施等により、ユースケースの更なる発展と社会実装を推進する。
解決したい課題	技術者間の属人的な人脈に依存せず、異分野の技術が繋がり、画期的なユースケースが生まれやすい土壌を整備する。また、開発されたユースケースが羅列された状況を脱し、規模・課題等の異なる各ユーザーが自身にとって最適なユースケースを容易に発見し、活用できる状態を実現する。

WGでの活動内容及び期待される効果

- WGでの活動内容
  - 活動1：技術シーズ・ビジネスニーズの交流・意見交換の場の提供
    技術シーズやソリューション、ビジネスニーズなどを持つ事業者・技術者が交流し、新たなユースケースの可能性や克服すべき課題等について意見交換。
  - 活動2：ナレッジの蓄積・展開のための方策の検討
    公共・民間ユーザ部門の会員等からの意見聴取を行いつつ、Project PLATEAU外で開発されたユースケースを含めた、ナレッジの蓄積・展開のために必要な方策を具体化。
- 期待される効果
  先進技術や技術横断などの画期的なユースケースの開発が進むとともに、各ユーザーが自身にとって最適なユースケースを容易に発見し、活用できることで社会実装が加速する。

実施スケジュール

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
技術シーズ・ビジネスニーズの交流・意見交換の場	交流・意見交換の場①		交流・意見交換の場②	
ナレッジの蓄積・展開方策の検討	課題の整理（ヒアリング含む）		方策の具体化（ヒアリング含む）	

連絡窓口

団体名　アクセンチュア株式会社
担当者名　増田
メールアドレス　mlit.plateau@accenture.com

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

取組内容｜標準化検討WG 令和6年度活動計画 （提案者：アジア航測株式会社）

WGの目的	標準仕様書に関する課題の把握及び解決策の立案やその成果の普及促進策の実施等により、データカバレッジの拡大とユースケースの社会実装を推進する。
解決したい課題	標準製品仕様書の複雑化や高度化は3D都市モデルのデータとしての網羅性や厳密性を高める一方、技術的な理解を難しくしており、データ整備事業者、システム開発事業者等の支障となっている。利用者との意見交換等を行うことで、標準製品仕様書のメンテナンスや普及方針を検討し、参入障壁の軽減を図る。

WGでの活動内容及び期待される効果

- WGでの活動内容
  - 活動1：標準製品仕様書のメンテナンス
    標準製品仕様書を利用する関係者と意見交換し、メンテナンスの課題整理、解決に向けた施策を検討
  - 活動2：標準製品仕様書の普及
    自治体職員、データ整備事業者、システム開発事業者等の関係者と意見交換し、標準製品仕様書の普及促進施策を検討

  ※次年度以降：データ公開に関するAPI等の標準化へのニーズ・要望も検討
- 期待される効果
  標準製品仕様書のメンテナンス、普及を促進させることで、自治体職員、データ整備事業者やシステム開発事業者の参入障壁を軽減し、カバレッジの拡大が期待できる。

実施スケジュール

	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月
標準製品仕様書のメンテナンス	前年度のレビュー	意見交換	改定方針・改定結果のレビュー	
標準製品仕様書の普及		普及方針の確認		今期活動のレビュー

連絡窓口

団体名　アジア航測株式会社
担当者名　守屋、黒川、名倉
メールアドレス　toshi-dx-aas@ajiko.co.jp

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

PLATEAUコンソーシアム設立について

今後の活動予定案

2024年　2025年

3月　4月　5月　6月　7月　8月　9月　10月　11月　12月　1月　2月　3月

定例会議

- 第2回
  - 2023年度PLATEAU取組成果報告
  - 2024度PLATEAU取組方針/活動計画
- 第3回
  - 2024年度のPLATEAUのプロジェクト全体像共有
- 第4回
  - WGの活動状況報告
  - 3D都市モデルの利活用における現状・課題を共有
- 第5回
  - WGの活動状況報告
  - 3D都市モデルの利活用における現状・課題を共有
- 第6回
  - 2024年度PLATEAU取組成果報告
  - 2025度PLATEAU取組方針/活動計画

アドバイザリーボード

定例会議にあわせて開催

ワーキンググループ

自治体WG

地方公共団体等の関連情報の収集・整理

情報共有機会

現状・課題等の情報収集

意見交換機会

今後の取組みの検討

ビジネスWG

技術シーズ・ビジネスニーズの交流①

技術シーズ・ビジネスニーズの交流②

ナレッジの蓄積・展開に関する課題の整理

ナレッジの蓄積・展開に関する方策の具体化

標準化検討WG

標準製品仕様書の前年度のレビュー

意見交換

標準製品仕様書の普及方針の確認

改定方針・改定結果のレビュー

今期活動のレビュー

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

HP開設のご案内

PLATEAUコンソーシアムHP
URL：https://www.mlit.go.jp/plateau/consortium/

コンソーシアム/分科会の
会議資料・議事概要を掲載予定
（過去の分科会資料は掲載済）

入会手続きを掲載

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

本日合意したい事項

- 以下の方針で進めさせていただきたい。
  - 本コンソーシアムの規約及びワーキンググループ規程について、4・5頁のとおり制定し、本日12/15より施行する
  - アドバイザリーボードの運営について、本コンソーシアムの定例会に併せて開催し、総合討議等の場を活用してご意見いただく形とする
  - ワーキンググループについて、会員より提案のあった自治体WG、ビジネスWG、標準化検討WGを11～13頁のとおり設置する

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III.アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV. PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI. オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

アドバイザリーボード座長挨拶

青山学院大学 古橋座長

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/
第1回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

PLATEAU
by MLIT

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III.アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV.PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI.オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有

都市局 内山企画調整官

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/
第1回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

PLATEAU
by MLIT

PLATEAUビジョン 2023

都市デジタルツイン実装プロジェクト | Project PLATEAU

2023/08/25 v1.1.0
2023/07/27 v1.0.0
2023/06/23 第10回分科会 v0.1.1

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

PLATEAUビジョン 2023

PLATEAUの目指すエコシステム

3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化が自律的に発展していく「エコシステム」の構築を目指します。

- 3D都市モデルを活用した魅力的なサービスを開発し、これを社会に実装していくことで、都市生活のWell-Being（一人ひとりの多様な幸せ）を実現していくことが重要。
- そのためには、国のみがイニシアティブをもった取組みでは不十分。産学官のプレイヤーがそれぞれイニシアティブを持ち、持続可能な形で3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化にコミットしていく必要がある。
- このため、国、地方公共団体、企業、大学等の研究機関、地域コミュニティなどのプレイヤーそれぞれの役割を明確化し、持続的に役割を果たしていく体制構築が必要。
- 次期PLATEAUでは、Phase02として、産学官が連携してPLATEAUを推進していく新たな体制＝PLATEAUエコシステムの構築を目指していく。
- 国は、Phase01で実施してきた基幹的施策を継続・拡充しつつ、各主体がイニシアティブを持ちそれぞれの役割を果たしていけるよう、環境整備施策を推進していく。

国によるPLATEAUを駆動させていくための基幹的施策

データ・カバレッジ拡大	ユースケース開発 ＋	コミュニティ形成
サービス実装	地域のデジタルケイパ向上	オープン・イノベーション創出

エコシステム構築

国による各主体の役割を円滑化・促進する環境整備施策

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

PLATEAUビジョン 2023

1. プロジェクト・ゴール
2. ゴール達成に向けたステップ
3. PLATEAUエコシステムの構築
4. アクションプラン

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

1.プロジェクト・ゴール

PLATEAU by MLIT

都市デジタルツインにより
社会に新たな価値をもたらす/地域の課題を解決する

Project PLATEAUは、デジタル技術により「豊かな生活、多様な暮らし方・働き方を支える「人間中心のまちづくり」の実現をめざす**「まちづくりDX」**のデジタル・インフラとしての役割を果たすことを目指し、我が国初の都市デジタルツインの実装モデル「3D都市モデル」の整備・活用・オープンデータ化に取り組んできました。

プロジェクト開始から4年目を迎えるPLATEAUは、これまでの「都市デジタルツインのポテンシャルを引き出す」ための実証/PoCフェーズから、「都市デジタルツインにより社会に新たな価値をもたらす/地域の課題を解決する」ための実装フェーズへと段階を進めます。

2. ゴール達成に向けたステップ

- Project PLATEAUでは、2020年度のスタート以降、「プロトタイプ開発」フェーズとして、先進技術に関心の高い産官学の様々なプレイヤーと連携して3D都市モデルのポテンシャルを検証。多様な分野で3D都市モデルの価値を実証してきた。
- 2024年度以降は、Phase01の成果を活用し、次のフェーズとして「魅力的なサービスの実装」段階へと本格的に移行。PLATEAUへの参加プレイヤーを先進層から関心層へ拡大させるための施策を産学官連携して講じていく。
- Phase02の取組みにより魅力的なサービスが実装されていくことで、本格的な普及フェーズであるPhase03への移行を目指していく。

現在 → これから

Phase01

プロトタイプ開発

先進技術に関心のある層による先行的なデータ整備と、それを用いたイノベーション企業/地域コミュニティによるプロトタイプサービスの開発が行われる段階。

Phase02

魅力的なサービスの実装

データ・カバレッジと認知の拡大によりサービス開発に参加するプレイヤーのすそ野が広がり、マネタイズ可能な魅力的なサービスが誕生する段階。

Phase03

デジタル・インフラとしての普及

3D都市モデルを活用した魅力的なサービスが続々と提供されることで、データ保有都市の優位性が明らかとなり、データ・カバレッジがさらに拡大。これに伴い参加プレイヤーやユーザーもマジョリティ層に拡大する段階。

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

3. PLATEAUエコシステムの構築 [1/2]

3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化が自律的に発展していく「エコシステム」の構築を目指す。

- 3D都市モデルを活用した魅力的なサービスを開発し、これを社会に実装していくためには、国のみがイニシアティブをもった取組みでは不十分。産官学のプレイヤーがそれぞれイニシアティブを持ち、持続可能な形で3D都市モデルの整備・活用・オープンデータ化にコミットしていく必要がある。
- このため、国、地方公共団体、イノベーション企業、大学等の研究機関、地域コミュニティなどのプレイヤーそれぞれの役割を明確化し、持続的に役割を果たしていく体制の構築が必要。
- 次期Project PLATEAU（Phase02）では、各プレイヤーの役割を定義し、産学官が連携してPLATEAUを推進していく新たな体制＝PLATEAUエコシステムを構築していくことを目指し、様々な施策を講じていく。

主体		主な役割
国	国土交通省都市局をはじめとする関係政府機関等。	研究開発投資やデータ利用環境の改善、コミュニティ形成、エコシステム構築等
地方公共団体	都道府県及び市区町村。都市計画部局に限らず、スマートシティやデジタル政策を担う幅広い部局。	3D都市モデルのデータ整備及びオープンデータ化、行政サービスの社会実装等
イノベーション企業	地元中小企業・スタートアップを含む、新たな技術を活用したサービス開発に意欲のある企業。	3D都市モデルを活用した新たなサービスの社会実装等
地域コミュニティ	大学やシビックテック団体、エンジニアコミュニテなど地域に根差した技術ホルダー。	3D都市モデルを活用したイノベーション/シーズ開発、地方公共団体や住民のデジタルケイパ向上等

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

3. PLATEAUエコシステムの構築 [2/2]

- 次期Project PLATEAU(Phase02)では、Phase01で実施してきた基幹的施策を継続・拡充しつつ、PLATEAUエコシステムの各主体がイニシアティブを持ちそれぞれの役割を果たしていけるよう、環境整備施策を打ち出していく。

継続して注力する施策

FY2024から注力する施策

Phase01

プロトタイプ開発

Phase02

魅力的なサービスの実装

1 データ・カバレッジ拡大

2 ユースケース開発

3 コミュニティ形成

＋

4 サービス実装

5 地域のデジタルケイパ向上

6 オープン・イノベーション創出

7 エコシステム構築

国によるPLATEAUを駆動させていくための基幹的施策

国による各主体の役割を円滑化・促進する環境整備施策

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

4. アクションプラン [1/2]

継続して注力する施策
FY2024から注力する施策

■ Phase02においてPLATEAUエコシステムを構築していくため、各主体の各主体の役割を円滑化・促進する環境整備施策を講じていく。

Phase01 ～FY23 | Phase02 魅力的なサービスの実装 FY24～FY25～27 | Phase03 FY28～（仮）

200都市 | 500都市

1 データ・カバレッジ拡大	A	標準データモデルのメンテナンス	ニーズを踏まえた仕様拡張、最新の国際知見の取り込み等の標準データモデルのメンテナンス
	B	データ整備手法の効率化	AI自動生成技術の開発・実装等の効率的なデータ整備手法の開発
	C	データ高度化・価値向上（BIM/空間ID/不動産ID/都市計画基礎調査等）	BIM、空間ID、不動産ID等との連携性強化、属性情報（都市計画基礎調査）の充実等のデータ価値（有用性）の向上
	D	データ整備モチベート	データ保有都市の優位性の可視化、データ整備プロセス支援等の自治体のデータ整備モチベーション向上
	E	データ整備ケイパの拡大	測量・3Dモデリング等の国内のデータ整備人材・産業のケイパビリティ向上
	F	データハンドリング技術のOSS化	品質検査、データ変換、データ解析等のコアとなるデータハンドリング手法の国産技術開発・オープンソース化
2 ユースケース開発	G	先進技術活用型ユースケース開発	新たな技術を用いたサービス開発等の先進的なユースケース開発のベストプラクティス創出
	H	先端技術研究型ユースケース開発	GISやシミュレーション技術等のPLATEAUのコアとなる技術の中長期的なR&D
	I	社会実装型ユースケース開発	ベストプラクティスやPLATEAUナレッジ等を活用した実装レベルのサービス開発の促進
3 コミュニティ形成	J	ムーブメント惹起	情報発信や開発イベント等のコミュニティ形成施策など、PLATEAUの認知向上、参加プレイヤーのすそ野拡大
	K	地域発コミュニティの形成	自治体、地元企業、地域コミュニティ等が主体となる開発イベントの実施等の地域発コミュニティの形成
	L	民間人材開発	トレーニング提供、アクセラレーションプラグラム等による民間のPLATEAU人材の拡大
	M	コミュニティ拡大	スタートアップ、エンジニア、アカデミズム等のコミュニティへのすそ野拡大
	N	非エンジニア層の育成	プロダクトデザインや政策活用等をテーマとしたワークショップやアイデアソンの実施
4 サービス実装	O	ニーズ・シーズマッチング	自治体や民間企業のサービス開発ニーズ収集、シーズを持つ技術ホルダとのマッチング等のサービス事業化
	P	地域発サービス創出	自治体や地元企業が主体となった、日常業務に貢献するサービス創出
5 地域のデジタルケイパ向上	Q	自治体のデジタルケイパ向上	地域コミュニティと連携したデジタル研修やWS等の自治体デジタルケイパの向上
	R	自治体ネットワーキング	導入自治体や関心自治体等が相互に情報交換や連携ができるようなネットワーキングの強化
	S	リビングラボの形成	市民を含む地元のコミュニティ発・自治体連携による地域の課題解消
6 オープン・イノベーションの創出	T	データアクセシビリティの向上	VIEW開発、SDK開発、データ配信・DLサービス開発など、PLATEAUのデータを活用しやすい環境の整備
	U	開発ナレッジの蓄積・展開	技術情報を集約し、技術資料、OSS、サンプルアプリ、プラグイン等を公開するなど、PLATEAUの開発ナレッジを共有
	V	環境障壁の除外	サービス実装の障壁となる制度的課題等の洗い出し、解消
7 エコシステム構築	W	産学官連携PF構築	多様な企業、地元企業、スタートアップ、研究機関等の幅広い産学官の主体が連携・協同開発・成果共有等をする場の構築
	X	国際展開	日本発の3D都市モデル技術をベースとした国内産業の国際展開、国際標準へのコミット、国際連携等
	Y	補助事業の管理支援	「都市空間情報デジタル基盤構築支援事業」（PLATEAU補助金）の執行管理の支援

FY28～（仮）：産学官の連携体制を中心としたプロジェクトの推進

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

PLATEAUビジョン 2023

4. アクションプラン [2/2]

継続して注力する施策

FY2024から注力する施策

- 産学官の各プレイヤーがそれぞれの施策を実行する主要な役割を担い、国をはじめとする他の主体が連携する推進体制を構築する。

			国	イノベ企業	自治体	データ整備産業	地域コミュニティ	シビックテック団体	研究機関	ユーザー	産学官連携PF
1	データ・カバレッジ拡大	A 標準データモデルの拡張	■								
		B データ整備手法の効率化	■								■
		C データ高度化・価値向上	■		■						■
		D データ整備モチベート		■	■		■			■	■
		E データ整備ケイパの拡大									■
		F データハンドリング技術のOSS化	■								■
2	ユースケース開発	G 先進技術活用型UC開発	■								■
		H 先端技術研究型UC開発	■	■							■
		I 社会実装型UC開発		■	■		■				■
3	コミュニティ形成	J ムーブメント惹起	■								
		K 地域発コミュニティ形成			■		■				
		L 民間人材開発									■
		M コミュニティ拡大									■
		N 非エンジニア層の育成					■				■
4	サービス実装	O ニーズ・シーズマッチング									■
		P 地域発サービス創出		■	■		■				
5	地域のデジタルケイパ向上	Q 自治体のデジタルケイパ向上			■		■				■
		R 自治体ネットワーキング			■						■
		S リビングラボの形成			■		■			■	
6	オープン・イノベーションの創出	T データアクセシビリティの向上	■								■
		U 開発ナレッジの蓄積・展開									■
		V 環境障壁の除外	■								■
7	エコシステム構築	W 産官学連携PF構築	■	■	■		■			■	■
		X 国際展開	■	■							■
		Y 補助事業の管理支援	■								■

Copyright © 2023 by MLIT. All rights reserved.

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III.アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV. PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI. オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

議題Ⅴ（PJ-PLATEAUの進捗状況共有）の目的・内容

目的

- 今年度のProject PLATEAUの取組みにおいて現在開発中のツールの目的・仕様・開発進捗を共有し、理解を深めていただくとともに、様々なステークホルダーから意見をいただくことで開発の品質を更に高める

内容

- 今年度のProject PLATEAUの取組みにおいて現在開発中のツールについて、
  - 開発の前提となる課題や開発の目的
  - 仕様・技術の概要
  - その仕様・技術により実現できること
    を共有いただく
- 本日はPLATEAU VIEW3.0、PLATEAU SDK2.0、QGISプラグインを対象とする

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III. アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV. PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI. オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

PJ-PLATEAUの進捗状況共有
PLATEAU VIEW3.0のリリースについて

Eukarya 馬場 英道

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/
第1回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

PLATEAU
by MLIT

PLATEAUコンソーシアム第１回定例会議・第1回アドバイザリーボード・第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023/12/15

Eukarya 馬場英道

株式会社ユーカリヤ
凸版印刷株式会社
株式会社Takram
Pacific Spatial Solutions株式会社
一般社団法人社会基盤情報流通推進協議会
株式会社MIERUNE

PLATEAU by MLIT

目次

1. **プロジェクト概要**
    1. 本プロジェクトの位置付け
    2. システム構成
2. VIEW3.0目玉機能
    1. CMS
    2. Editor
    3. VIEW
3. 想定スケジュール

1.プロジェクト概要: 本事業の位置付け

1.プロジェクト概要: システム全体構成

1.プロジェクト概要: PLATEAU CMSについて

PLATEAU CMSの役割

- PLATEAUデータの一元管理
- PLATEAUデータの品質検査と自動データ変換
- G空間情報センターとの連携
- その他外部システム（PLATEAU SDKなど）向けにデータ配信

想定ユーザー:

- **PLATEAU**データ作成事業者
- 国交省職員

1.プロジェクト概要: PLATEAU Editorについて

PLATEAU Editorの役割

- PLATEAU VIEWで掲載するデータの公開前プレビュー
- 地物の色分けや凡例のノーコードでの設定
- その他PLATEAU VIEWに関連する見た目のカスタマイズ

想定ユーザー:

- **PLATEAU**データ作成事業者
- 国交省職員

1.プロジェクト概要: PLATEAU VIEWについて

PLATEAU VIEWの役割

- PLATEAU データの手軽なプレビューを提供する
- PLATEAUユースケースデータ等を掲載し、データの活用可能性を紹介する
- 利用者のG空間情報センターへの導線を確保し、オープンデータの利活用を促進する

想定ユーザー:

- 一般ユーザー（**PLATEAU**データ活用に興味がある方）

1.自治体向けPLATEAU VIEW（例：さいたま市）

- PLATEAUデータと自治体が持つ独自のGISデータの同時掲載が可能
- 自治体にとっては、GISデータの管理、運用、可視化までをPLATEAUのシステムの上で構築することができ、迅速かつ安易にシステム構築が可能

想定ユーザー:

- 対象自治体職員及び自治体市民

目次

1. プロジェクト概要
    1. 本プロジェクトの位置付け
    2. システム構成
2. **VIEW3.0目玉機能**
    1. CMS
    2. Editor
    3. VIEW
3. 想定スケジュール

2-1. CMSの目玉機能（1/3）| ステータス管理機能

- 各都市のデータ登録状況を管理するラベルを設定し、CMS上でステータス管理が可能
- ステータスごとの絞り込みや、表示カラムの設定等が可能で、CMS上でのデータ管理の利便性向上

2-1. CMSの目玉機能（2/3）| G空間情報センター連携

⟷

- G空間情報センターへ掲載するデータ目録やメタデータ等をCMS上から入力して連携が可能に。

2-1. CMSの目玉機能（3/3）|アカウント基盤統合

CMS

↕

Editor

- CMSとEditorのユーザーアカウント基盤を統合し、アカウント発行プロセスを簡素化
- CMSとEditorの行き来がよりしやすく

2-2. Editorの目玉機能 | コンポーネント機能のアップデート

Editorの操作性改善

- 地物や凡例表示をカスタマイズするコンポーネントの設計をVIEW3.0向けに見直し
- また、Editorにおける地図表示領域を拡大し、データ登録事業者や国交省職員がEditorをより操作しやすく改善

2-3. VIEW UI大幅改善

VIEW2.0

- △ PLATEAUデータのレンダリング品質
- △ カタログ内データの検索性
- △ ユーザーの目を引くような視覚効果や目玉機能

VIEW3.0

- ☑3DCG技術を駆使したレンダリング
- ☑ データ検索性とインタラクションの再設計
- ☑ヒートマップ等あっと目を引くデータ表現

2-3. VIEWの目玉機能(1/4)| レイヤーショートカット機能

Before

データカタログ一覧から閲覧したいデータを選択
→ページ読み込みからデータ表示まで8クリックほど必要

After

現在見ているカメラ位置に対応する閲覧可能データをショートカット式に表示し、簡単にデータの追加が可能に
ページ読み込み後1クリックでデータが表示可能

2-3. VIEWの目玉機能(2/4) | 作図機能

作図機能

- 立方体、円柱、自由形状で選択し、簡単に3Dオブジェクトの作図が可能。
- 作図した図形をGeoJSON形式でエクスポートし、再利用も可能

2-3. VIEWの目玉機能(3/4) | ヒートマップ機能

- 国勢調査人口及び世帯データによるヒートマップ表現
- ヒートマップ表示のパフォーマンスを大幅に改善し、日本全体を表示しても問題なく描画が可能
- 標高データを元にしたヒートマップ表現

2-3. VIEWの目玉機能(4/4) | その他

その他

- Google Street View連携
- 建築物モデルの複数選択
- 太陽光の角度を日時指定で変更
- 地物色分けのカラースキーム変更

2-3. VIEWの目玉機能|操作の様子

「操作動画（別画面で投影、投影限り）」

目次

1. プロジェクト概要
    1. 本プロジェクトの位置付け
    2. システム構成
2. VIEW3.0目玉機能
    1. CMS
    2. Editor
    3. VIEW
3. 想定スケジュール

全体スケジュール

CMSデータ登録部分はFME連携を含めて12月上旬に解放済み、Editor解放に向け動作確認や必要なドキュメント類の整備にあたっている。（1月半ば解放予定）

PLATEAU
by MLIT

PLATEAU
by MLIT

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III.アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV. PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI. オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

PJ-PLATEAUの進捗状況共有
PLATEAU SDK2.0のリリースについて

Synesthesias 有年 亮博

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/
第1回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

PLATEAU
by MLIT

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議
第1回アドバイザリーボード
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

PLATEAU SDK2.0/Toolkits開発

2023/12/15

まちづくりのDXの推進に向けた3D都市モデルの利用環境改善業務
シナスタジア/ユニティ・テクノロジーズ・ジャパン共同提案体

シナスタジア：有年

PLATEAU by MLIT

目次

PLATEAU全体に対する業務の位置づけ 2P
今年度の主要チャレンジ 3P
プロジェクトのスコープ 4P
システムアーキテクチャ全体図 5P
シナスタジアについて 6~10P
PLATEAU SDK 2.0の追加機能 11P
属性情報へのアクセシビリティ改善 12P
テクスチャの結合機能 13P
3D都市モデルのマテリアル改善機能 14~15P
オブジェクトの結合・分割機能 16P
PLATEAU SDK-Toolkits for Unity 17P
Unityについて 18~21P
PLATEAU SDK-Toolkits for Unity 22P
Rendering Toolkit 24P
Sandbox Toolkit 25P
Maps Toolkit 26P
AR Extensions 27P
全体スケジュール 30P
今後のスケジュール 31P
参考／ユーザーアンケート結果抜粋 32~36P
アンケートのご案内 37P

PLATEAU全体に対する業務の位置づけ

今年度の主要チャレンジ

JVとしてのPLATEAUへの貢献内容

二大ゲームエンジンであるUnity,UnrealEngineに対応するPLATEAU SDK2.0を開発する。最新仕様への対応、UI/UX改善、マテリアル編集機能の追加等を行う。
また、SDKのアドオンとして、レンダリング品質向上やGISアプリ、ARアプリなどの開発支援を行う一連のツールキットをUnityに特化して開発する。

Synesthesias

- 標準製品仕様書3.0への対応
- UI/UX改善
- 機能追加
- チュートリアルの充実

Unity

- ゲームエンジンUnityに特化したToolkitsの開発
- SDKを強化できるような各コアモジュールの開発
- 現在の開発者の課題をベースとした機能定義による、開発円滑化への貢献

プロジェクトのスコープ

PLATEAU SDK for Unityを開発・拡充することで、より多くの一般開発者・企業がPLATEAUを活用したアプリ・サービスを開発しやすくする。

これまでの課題

令和2年度からスタートしたProject PLATEAUでは、国際標準規格CityGML2.0に基づき、我が国初の都市デジタルツインの標準データモデルを「3D都市モデル」の標準製品仕様という形で定め、全国でデータ整備とその活用を拡大してきた。
3D 都市モデルを活用した様々な領域におけるアプリケーション開発をさらに促進していくために令和4年度に開発者向けツールキット(SDK)を提供した。
ただし、直感的な操作ではないこと、アプリの重さ、テクスチャやマテリアルの無い地物が白く表示されるなど、専門知識を持たない開発者では、自由にアプリケーション開発を行うことが難しかった。
そのため、PLATEAU SDKの機能拡充を行うことで、一般開発者のアプリ開発における技術面、**予算面・スケジュール面、検討の深度**において貢献し、アプリを開発しやすくする。

事業イメージ

モバイル端末向け開発や位置情報利用によく使われる機能を開発環境のツールキット（SDK:Software Development Kit）として開発し提供する。また、SDKの使用例としてサンプルとなるアプリを併せて開発し、テンプレートとして公開する。開発者の熟練度に関わらずある一定の技術水準のアプリを開発できる環境を提供する。

システムアーキテクチャ全体図

株式会社シナスタジア
会社紹介

SYNESTHESIAS

株式会社シナスタジア

シナスタジアは東京大学発のITベンチャー企業で、自動運転車内でのエンタメサービス開発、
VR/ARコンテンツ開発・技術開発などを手掛けるテックカンパニーです。

名称	株式会社シナスタジア
設立	2018年5月（2016年9月登記）
事業内容	❶自動運転車内でのエンタメサービス開発 ❷VR/ARコンテンツ制作・技術開発 ❸3D都市モデルを活用した事業開発支援
資本金	400,000円
所在地	東京都品川区北品川1-12-10 ジャコムビル

© 2023 Synesthesias.

創業メンバー

SYNESTHESIAS

CEO

有年　亮博
Aritoshi Akihiro

2017年
- 東京大学理学部情報科学科卒業
- 東京大学大学院情報理工学系研究科入学
  コンピュータ科学専攻加藤研究室所属

2018年
- **株式会社シナスタジア代表取締役就任（起業）**

2019年
- 東京大学大学院情報理工学系研究科休学

2022年
- 東京大学大学院情報理工学系研究科自主退学。現在に至る

専門は位置情報技術。ロボットやVR/ARのための位置推定技術の開発に従事。
五感のデジタル化を通じて人々の生活を豊かにしたいという想いから崎山・高田と3人で株式会社シナスタジアを創業。

CTO

崎山 和正

東京大学
理学部情報科学科 卒業

CCO

高田 一輝

東京大学大学院
学際情報学修士

© 2023 Synesthesias.
Confidential

シナスタジアのコア技術・強み

SYNESTHESIAS

高精度な
センシング技術

位置推定技術

ハード・ソフト一体
でのシステム開発

新興・最先端分野
でのスピーディー
な開発力

シナスタジアは情報科学を究めたメンバーで構成されるトップエンジニア集団です。
創業メンバー以外も東大・筑波大出身者をはじめ“異能”vation採択者など業界最高峰の開発人材を抱え、
既に得意とする領域のほかWeb3.0/NFTといった新興領域でも迅速な研究調査・新規開発が可能です。

© 2023 Synesthesias.

SYNESTHESIAS

RideVision

モビリティと走行空間のXR融合により、
あらゆる移動をエンターテイメントに

・移動する乗り物の中で体験可能なシナスタジアの独自XRシステム

・ハードウェア（HMDやセンサー）、ソフトウェア一体型

WalkVision

AR/メタバース空間と現実を
融合し、あらゆる体験を拡張する

・視聴はスマホ・タブレット・VR/ARゴーグルなどあらゆるデバイスに対応

・コンテンツやターゲットの年齢などに合わせて最適な手法を選択可能

© 2023 Synesthesias.

PLATEAU SDK 2.0の追加機能

PLATEAU by MLIT

属性情報へのアクセシビリティ改善(8/25Release）

- エディタ画面上でノーコードでの属性情報の表示
- 遅延の無い高速な属性情報へのアクセスAPI

テクスチャの結合機能(8/25Release）

- 3D都市モデルのマテリアル数削減によるパフォーマンスの向上

3D都市モデルのマテリアル改善機能(10/19Release)

- テクスチャが提供されていない地物へのデフォルトのマテリアルの付与
- 地形メッシュへの衛星写真の付与

オブジェクトの結合・分割機能（11/15Release）

- インポート済みの3D都市モデルについて、個別の地物への分割・複数地物の結合機能を提供

標準製品仕様書3.0への対応(10/19Release)

- 鉄道、徒歩道、広場等追加の地物に対応
- LOD4建築物モデルに対応

エディタ画面での属性情報表示イメージ

衛星写真付与イメージ

属性情報へのアクセシビリティ改善

遅延の無い高速な属性情報へのアクセスAPI
エディタ画面上でノーコードでの属性情報の表示

エディタ画面上でクリックした地物の属性情報を表示。
属性情報取得のAPIも更新し高速化、利便性向上。

シーンビュー上で選択された地物とその親の地物をハイライト表示し、属性情報を表示する。
例えば下図は、屋根をクリックした場合に、屋根の情報とその親である建物の情報が表示される図。

テクスチャの結合機能

3D都市モデルのマテリアル数削減によるパフォーマンスの向上

ゲームエンジンでのレンダリング最適化のため、マテリアル数を削減しパフォーマンスを向上させる。
インポートされた3D都市モデルについて、複数のテクスチャを1つに結合することでマテリアル数を削減する機能を提供。

複数のテクスチャを結合

結合後のテクスチャ

3D都市モデルのマテリアル改善機能

テクスチャが提供されていない地物へのデフォルトのマテリアルの付与
地形メッシュへの衛星写真の付与

マテリアルが提供されていない地物について、ユーザー側でマテリアルが設定されていない場合は
デフォルトのマテリアルが設定されるようにする。

地形に衛星写真や地図を自動で貼る機能。
地図の種類やズームレベルも指定可能。

→

3D都市モデルのマテリアル改善機能

テクスチャが提供されていない地物へのデフォルトのマテリアルの付与
地形メッシュへの衛星写真の付与

デフォルトマテリアル一例

オブジェクトの結合・分割機能

インポート済みの3D都市モデルについて、個別の地物への分割・複数地物の結合機能を提供

PLATEAU SDKではインポートされた3D都市モデルを調整するための機能として、地物のフィルタリング機能を提供しているが、SDK2.0ではそれに加えてオブジェクトの分割・結合機能を提供する。
インポート後でも3Dオブジェクトの粒度を変更できる。

PLATEAU SDK-Toolkits for Unity

2023

Unity®

History

2004
デンマーク、コペンハーゲンで創業

2005
Game Engine, Unity 初版 提供開始

2020
NY証券取引所に上場

2022年現在
本社：US サンフランシスコ
従業員：約 5,200＋ 名
事業所：58（Global Office）

Unity Pro

リアルタイム３Dコンテンツを開発できる統合開発環境

統合開発環境

Unity®

- ✓ 3D空間や3Dモデルを自在に作り操るReal Time 3D エンジン
- ✓ 物理運動を再現しシミュレーションを可能にする物理運動エンジン
- ✓ PC/mobile/Console/AR/VR デバイスなど殆どのデバイスに対応
- ✓ アプリ開発を支援する素材/モデル/機能を共有するアセットストア

Unity®

Products & Services

Products

統合開発環境 / RT3D エンジン (Unity)、
DevOps 製品群、
産業向け各種ソリューション
アセットストア
Game内広告配信ネットワーク

Services

業務用システム開発
開発支援
トレーニング、研修サービス
ユーザーコミュニティ支援

実は身近な存在

ゲーム

ポケモンGO

デジタルアート

teamLab Borderless

ライブエンターテイメント

第69回NHK紅白歌合戦

映画

ライオンキング

VTuber

Vtuber関連の講演

アニメ

アニメ制作の裏側

PLATEAU SDK-Toolkits for Unity

PLATEAU を使ったアプリ開発の支援ツール

PLATEAUの提供する「3D都市モデル」のデータを利用したUnity上でのアプリケーション開発を支援するツールキット群です。

4つのコンポーネントで構成され、PLATEAUを使ったアプリケーションの中で利用したい機能を簡単に実装できるようになります。

- Rendering Toolkit
- Sandbox Toolkit
- Map Toolkit
- AR Extensions

PLATEAU

Unity®

Rendering Toolkit

PLATEAUの3D都市モデル・LODに適したグラフィックス向上処理を実現。テクスチャの自動作成・高解像度化をしたり、時候に合わせた環境光などの調節機能を実現することで開発者がより手軽にシミュレーションを行えるような環境を提供する。

Sandbox Toolkit

3D都市モデルを用いてゲームや映像などを直感的に開発できるように、カメラの配置、人や乗り物の配置およびその移動の設定、インタラクションのためのコライダー設定などを簡易的に行えるような環境を実現する。

Maps Toolkit

PLATEAUの3D都市モデルを利用したGIS開発向けツールキット。PLATEAUの3D都市モデルをグローバルな地形モデルに配置することが可能。また、BIMモデル（IFCファイル）やGISデータ（シェープファイル及びGeoJSON）を読み込んで地形モデル上に配置することが可能。

AR Extensions

PLATEAUの3D都市モデルを活用したARアプリ開発ツール。AR空間に3Dモデルを配置し、位置のずれや地面の高さを調整できるコンポーネントを提供する。さらに、3Dオブジェクトを遮蔽するオクルージョン機能も備えている。ストリーミングにより配置された3D都市モデルを用いたARアプリ開発も可能。

10月よりRelease2をGitHubで公開中！！

PLATEAU SDK-Toolkits for Unity
https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-Toolkits-for-Unity

PLATEAU-SDK-AR-Extensions-for-Unity
https://github.com/Project-PLATEAU/PLATEAU-SDK-AR-Extensions-for-Unity

Unity®

全体スケジュール

現在

		タスク・マイルストン
ALL	1	Synesthesias SDK 2.0リリース
ALL	2	
ALL	3	UTJ Release1(Rendering SDK LOD1, Sandbox)
ALL	4	UTJ Release2(Rendering SDK LOD2, AR, GIS,Sandbox)
ALL	5	UTJ Release3 (sample project)
ALL	6	
SYN	1	要件定義・実施計画書の作成
SYN	2	SDK 2.0主要機能開発
SYN	3	標準製品仕様書3.0への対応
SYN	4	ユーザーテスト
SYN	5	機能追加・改修
SYN	6	チュートリアル・テンプレート作成
SYN	7	SDK 2.0リリース
SYN	8	効果検証
UTJ	1	開発方針・計画
UTJ	2	開発体制構築
UTJ	3	Reelase1 sprint計画
UTJ	4	Release1 sprint1
UTJ	5	Release1 sprint2
UTJ	6	Release1 sprint3
UTJ	7	Release1 sprint4/QA
UTJ	8	Release1(Rendering SDK LOD1, Sandbox)
UTJ	9	Release1 開発者フィードバック
UTJ	10	Reelase2 sprint計画
UTJ	11	Release2 sprint1
UTJ	12	Release2 sprint2
UTJ	13	Release2 sprint3
UTJ	14	Release2 sprint4/QA
UTJ	15	Release2(Rendering SDK LOD2, AR, GIS,Sandbox)
UTJ	16	Release2 開発者フィードバック
UTJ	17	Reelase3 sprint計画
UTJ	18	Release3 sprint1
UTJ	19	Release3 sprint2
UTJ	20	Release3 sprint3
UTJ	21	Release3 sprint4/QA
UTJ	22	Release3(sample project)
UTJ	23	Release3 開発者フィードバック
UTJ	24	技術報告書作成
UTJ	25	OSSデリバリーまとめ

今後のスケジュール

SDK

SDK2.0の正式リリース・・12/26

サンプルアプリのリリース・・1月末

SDK2.0の機能を体験できるGISサンプルとゲームサンプルを提供

属性情報や地物型によってマテリアルを分ける機能・・1月末予定（ベストエフォート）

LOD2の道路は、属性情報に「歩道」「車道」などの役割が付与されているため、役割を識別して歩道と車道で見た目を変える機能を提供することでUIを改善する

Toolkit

リリース3(以下）・・12/3

- AR Extensionsのアップデート
- サンプルプロジェクト4種を提供
  - ARCityMiniature
  - UrbanScape
  - AR TreasureMap
  - CityRescueMultiplay

マイナーアップデート・・1月末

- Rendering Toolkitの更新をしたマイナーアップデートを予定

ぜひ、PLATEAU SDK／Toolkitsをお試しいただき、感想やフィードバックをお願いします。アンケートも随時募集しております。

参考／ユーザーアンケート結果抜粋

当SDKの使いやすさについて

【質問2】当SDKの使いやすさはいかがでしたか。
14 件の回答

【質問7】当SDKの使いやすさはいかがでしたか？
8 件の回答

昨年度

使いやすい（4+5)・・・21.4%
使いづらい（1+2)・・・35.7%

今年度

使いやすい（4+5)・・・87.5%
使いづらい（1+2)・・・0%

参考／ユーザーアンケート結果抜粋

範囲選択画面の使いやすさについて

昨年度

使いやすい（4+5)・・・33.3%
使いづらい（1+2)・・・66.7%

今年度

使いやすい（4+5)・・・50.0%
使いづらい（1+2)・・・25.0%

参考／ユーザーアンケート結果抜粋

インポート設定の使いやすさについて

【質問6】インポート設定の使いやすさはいかがでしたか？
3 件の回答

【質問11】インポート設定の使いやすさはいかがでしたか？
8 件の回答

昨年度

使いやすい（4+5)・・・33.3%
使いづらい（1+2)・・・66.7%

今年度

使いやすい（4+5)・・・87.5%
使いづらい（1+2)・・・12.5%

参考／ユーザーアンケート結果抜粋

回答者の業種について

【質問17】 ご回答者様の業種をお答えください

【質問3】 ご回答者様の業種をお答えください

8 件の回答

昨年度

エンジニアに関わる方が78.5%

今年度

幅広い職種・業種の方にご利用いただいている

参考／ユーザーアンケート結果抜粋

回答者のUnity経験年数について

【質問18】 「Unity」の経験年数についてお答えください。
13 件の回答

【質問4】 「Unity」の経験年数をお答えください。
8 件の回答

昨年度

経験年数が5年以上と熟練の開発者が多かった

今年度

1年未満＋未経験が62.5%と、開発スキルが比較的浅い方にもご利用いただいている

アンケートのご案内

PLATEAU公式ホームページ内に、アンケートページへのリンクバナーがあります。
忌憚ないご意見お待ちしております。

E.O.F

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III.アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV.PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI.オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

PJ-PLATEAUの進捗状況共有
QGISプラグイン開発状況

MIERUNE 久納 敏矢

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/
第1回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

PLATEAU
by MLIT

QGISプラグイン開発状況

PLATEAUコンソーシアム

MIERUNE
久納敏矢

自己紹介

MIERUNE

Software Engineer

久納　敏矢

TOSHIYA Kunou

- 不動産鑑定業者にて、地方自治体向けのコンサルタント業務に従事したのち、現職。
- MIERUNEでは、QGISのプラグイン開発やコンサルティング、講習会の運営を行う。
- MIERUNEへの転職を機に名古屋から札幌へ引っ越し
- 好きなもの：カルチャー全般、Podcast、サウナ、自転車、山登り

©Project PLATEAU / MLIT Japan

目次

MIERUNE

01 MIERUNEとQGIS

02 PLATEAU QGIS Plugin開発状況

03 PLATEAUデータ(プラグイン)の活用事例

©OpenStreetMap contributors

MIERUNE

01

MIERUNEとQGIS

©OpenStreetMap contributors

PLATEAU関連実績

MIERUNE

plateau2minecraft

- PLATEAUのCityGMLをマインクラフトに取り込み可能なデータ形式に変換するためのツールです
  - MinecraftはMicrosoft社の商標です
  - また、本データはMicrosoft社及びMinecraft開発社のMojang Studiosの承認を得ているものではなく、Minecraft公式として提供するものではありません

https://github.com/Project-PLATEAU/plateau2minecraft/tree/main/src/plateau2minecraft

©Project PLATEAU / MLIT Japan

PLATEAU関連実績

MIERUNE

Minecraftワールドデータ オープンデータ化/イベント支援

札幌市

新宿区

高松市

Project PLATEAU支援

デザイン制作

公式ドキュメント監修・執筆

PLATEAUハッカソン メンター

©Project PLATEAU / MLIT Japan

MIERUNE

札幌市マイクラはこんな取り組みにもつながってます！

Press Release

国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

「世界の北海道」を目指して
―北海道総合開発計画―

ウポポイ
民族共生象徴空間

令和５年１０月２３日
北　海　道　開　発　局

同時発表：北海道・札幌市

無電柱化パネル展『わがまちの無電柱化を考える』を開催します！

～毎年１１月１０日は「無電柱化の日」です～

北海道開発局では、「防災」、「安全・円滑な交通確保」、「景観形成・観光振興」の観点から無電柱化を推進しています。

無電柱化の意義や効果について広く知っていただくことを目的に、札幌駅前地下歩行空間（チ・カ・ホ）及び北一条地下駐車場地下通路において、北海道開発局・北海道・札幌市と共催で無電柱化パネル展『わがまちの無電柱化を考える』を開催します。

なお、本パネル展は全道各地で実施する「無電柱化の日 全道一斉パネル展」の一環として開催するものです。

1. 開催期間・場所　（詳細は 別紙 を参照）

○期間　令和5年11月6日（月）11:00～11月12日（日）16:00※1

※1　6日（月）のみ11:00～16:00、7日（火）～12日（日）は10:00～16:00

○場所　【第1会場】札幌駅前地下歩行空間（チ・カ・ホ）北1条イベントスペース（12番出口付近）

【第2会場】北一条地下駐車場地下通路広場（6番出口付近）

©Project PLATEAU / MLIT Japan

PLATEAU関連実績

©Project PLATEAU / MLIT Japan

MIERUNE

み え る ね

MIERUNEは位置情報に関する豊富な技術や実績を持つソリューションカンパニーです

© 地理院地図 全国最新写真(シームレス)

位置情報は身近なところで使われています

© 地理院地図 全国最新写真(シームレス)

事業一覧

QGIS

WebGIS

MapTiler

MIERUNE BASE

©Project PLATEAU / MLIT Japan

MIERUNEのソリューション

MIERUNE

Leaflet
FOSS4G
Amazon Location Service
GeoDjango
OpenMapTiles
住所検索
MapLibre
MapTiler
オープンソース
DEM
STAC
気象データ
Cesium
ベクトルタイル
QGIS
Minecraft
Python
点群
ルート検索
LiDAR
可視化
Cloud-Optimzied
オープンデータ
位置情報
PLATEAU
Deck.gl
OpenLayers
衛星データ
Mapbox
AWS
OpenStreetMap
OSGeo
GTFS
機械学習
3D

© 地理院地図 全国最新写真(シームレス)

QGIS

- OSS(オープンソース)のデスクトップGISソフト
- 位置情報可視化解析のデファクトスタンダード
- 世界で月当たり1.5億回起動

©Project PLATEAU / MLIT Japan

MIERUNE

1ヶ月のQGIS起動回数

データは2023/3/31現在

https://feed.qgis.org/metabase/public/dashboard/df81071d-4c75-45b8-a698-97b8649d7228

MIERUNE

QGISのMIERUNE

QGISへの高度な知見・深い理解を背景に
各種コンサルティング事業を実施

QGISカスタマイズ

講習会

技術サポート

https://www.mierune.co.jp/qgis

©Project PLATEAU / MLIT Japan

MIERUNE

プラグイン例

公共交通オープンデータ
（GTFS）変換・閲覧

地籍XML（法務省備付地図）
変換・閲覧

PLATEAU災害廃棄物
対応検討

©Project PLATEAU / MLIT Japan

MIERUNE

QGIS講習会

- 企業向けの講師派遣
- 定期開催
- その他イベントでのハンズオン
  - PLATEAU
  - Tellus
  - FOSS4G

©Project PLATEAU / MLIT Japan

メッセージ

MIERUNE

位置と情報で世界を変える

© 地理院地図 全国最新写真(シームレス)

MIERUNE

02

PLATEAU QGIS Plugin開発状況

©OpenStreetMap contributors

沼津市のデータをプラグインで読み込み、3D表示してみた例

©Project PLATEAU / MLIT Japan

沼津市のデータをプラグインで読み込み、3D表示してみた例

MIERUNE

©Project PLATEAU / MLIT Japan

沼津市のデータをプラグインで読み込み、3D表示してみた例

©Project PLATEAU / MLIT Japan

プラグイン開発の経緯

- QGISはCityGMLの読み込みに一部対応しているものの、**制限が非常に多い**:
  - LOD2 以上が存在する都市オブジェクトを読むことができない。
  - PLATEAU(i-UR:i-都市再生技術仕様)が定める属性値を一部しか読み込むことができない。
  - PLATEAUではコードリストを用いた属性値の表現が多いが、コード番号のまま読み込まれてしまうため、現実的に解析に使えない。
  - 読み込みにかなり時間がかかる。巨大なCityGMLファイルでは場合によってはQGISの処理が止まる。

©Project PLATEAU / MLIT Japan

プラグインの要件

- 前ページ状況を踏まえて、以下の要件を満たすプラグインを開発
  - CityGMLをQGISのレイヤとしてインポートするQGISプラグインを開発する。
  - LOD1 をターゲットにQGISで表示可能な形でジオメトリを抽出する（結果的にLOD2以上の読み込みにも対応した）。
  - PLATEAU（i-UR）で使われうるすべての属性を、QGISのレイヤーのカラムとして抽出する。
  - 3D都市モデル標準製品仕様書Ver3.0で定義されているPLATEAUの20種類の都市オブジェクトすべてに対応する。

©Project PLATEAU / MLIT Japan

プラグインでできること

- 建築物以外の地物も読み込むことができる。
- QGISデフォルトの読み込みよりも、高速に読み込むことができる。
- ジオメトリ関係
  - LOD2 以上が存在する都市オブジェクトも読み込むことでができる。
  - 必要なLODを選択して読むことができる。
- 属性関係
  - 属性情報を欠落することなく読み込みできる。
  - コード番号で定義されている属性を対応する文字列で取得することができる。

©Project PLATEAU / MLIT Japan

プラグインの紹介

- プロセッシング形式のプラグインとして開発

©Project PLATEAU / MIERUNE Japan

プラグインの紹介

- 読み込むLODを選択
  - デフォルトでは「最も単純なLODのみを読み込む」。そのほかに、「最も詳細なLODのみを読み込む」「すべてのLODを読み込む」の選択が可能

LOD1

LOD2

LOD3

©Project PLATEAU / MLIT Japan

プラグインの紹介

- 地物を構成する部分ごとにレイヤを分ける
  - 一部のモデルのLOD2以上において、壁や屋根、車道や歩道といった地物を構成する部分ごとにレイヤを分けて読み込むことが可能

建物を一つのレイヤとして読み込んだ場合

地物を構成する部分ごとにレイヤを分けた場合

©Project PLATEAU / MLIT Japan

プラグインの紹介

- 3次元データを強制的に2次元化する
  - 2Dでの見た目は同じだが、Z座標（高さ）を持たない図形として読み込まれる

プロバイダからの情報

ストレージ	Memory storage
文字コード	
ジオメトリ	Polygon (MultiPolygonZ)

3次元で読み込んだ場合

プロバイダからの情報

ストレージ	Memory storage
文字コード	
ジオメトリ	Polygon (MultiPolygon)

2次元で読み込んだ場合

©Project PLATEAU / MLIT Japan

プラグインの紹介

- 既存の同名レイヤに追記する
  - PLATEAUのデータはメッシュごとに整備されており、QGISで解析などを行う場面では読み込んだデータを一つのレイヤにマージすることが想定される。
  - そのため、プラグインの機能として自動でマージできるオプションを付与

追記しなかった場合

追記した場合

©Project PLATEAU / MLIT Japan

プラグインの紹介

- プラグインのインストール方法
  - QGIS公式プラグインリポジトリにて公開されているため、QGISから直接インストールが可能

©Project PLATEAU / MLIT Japan

プラグインのデモ

©Project PLATEAU / MLIT Japan

「Japanese Grid Mesh」プラグインの紹介

- 日本で使われている「地域メッシュ」を作成できるプラグイン
- 「標準地域メッシュ」を作成することで、対象の場所のPLATEAUデータを容易に探すことが可能

©Project PLATEAU / MLIT Japan

今後の開発について

- 標準仕様書 ver2.0 によって整備されたデータの読み込みについては、基本的に対応が完了済
- 現在対応中の項目
  - アジア航測様などからのレビュー内容の反映
  - 標準仕様書3.1以降の改訂内容の反映

2023.04.07	3.0	以下に示す観点により、標準製品仕様書を改定： • 地物の拡充 • LOD（Level Of Detail：詳細度）の拡大及び精緻化 • 引用する仕様（i-UR）の更新
2023.05.12	3.1	• 誤字・脱字の修正、表記及び書式の統一 • 応用スキーマクラス図と文書の不一致の修正（4.2.3, 4.7.3, 4.15.3, 4.19.3） • LODごとの属性情報の必須項目、条件付き必須項目を修正（4.11.1）
2023.09.19	3.2	• 地下埋設物モデルへの属性追加、平面直角座標系の採用 • 地形モデルの仕様を変更（水域におけるTINの削除） • 都市計画決定情報モデルへの属性追加 • 誤字・脱字の修正

©Project PLATEAU / MLIT Japan

03

PLATEAUデータ(プラグイン)の活用事例

©OpenStreetMap contributors

PLATEAUデータの活用事例

2021年7月に熱海市伊豆山で発生した土石流災害の可視化（MIERUNEで担当した某メディア向けのQGIS講習会資料より）

©Project PLATEAU / MLIT Japan

MIERUNE

PLATEAU建築物＋下水道管データを用いた3Dでの可視化

※下水道の高さは強調して表示

©Project PLATEAU / MLIT Japan

MIERUNE

衛星データから桜の開花検知によるお花見スポット探索の実装と3Dでの表現【MAXARの衛星データでやってみた】(宙畑)

Credit : [2023] Maxar Technologies

https://sorabatake.jp/34076/

©Project PLATEAU / MLIT Japan

まとめ

- 標準製品仕様書2.0のデータへの対応は概ね完了。標準製品仕様書3.0のデータへの対応を進めている
- プラグインの開発により、GIS分野でのPLATEAUデータの活用が広がることを期待
- 現在、絶賛開発中のためみなさまからのレビューお待ちしています！
  - MIERUNE/plateau-qgis-plugin

© 地理院地図 全国最新写真(シームレス)

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III.アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV. PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI. オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

議題Ⅵ（オープンデータ利用の現状と課題）の目的・内容

目的

- PLATEAUを利活用した取組を共有いただいた上で、3D都市モデルの自体の付加価値を更に高め、又はその利活用を更に促進するためのアイディアを得て、オープンデータの仕様や提供方法等の改善に繋げる
- 類似のユースケース開発・社会実装が自発的に広がる契機とする

内容

- PLATEAUのオープンデータの利活用を進める事業者の皆さまから、
  - 各業界・用途における利活用の現状
  - それを通じて感じるPLATEAUの課題や改善への期待
    を共有いただく
- 本日は交通事故発生のリスク評価、建設前の高層ビルからの風景シミュレーション、建設施工シミュレーションを対象とする

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III.アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV. PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI. オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

オープンデータ利用の現状と課題
損保業界における活用事例・課題

MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/
第1回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

PLATEAU
by MLIT

PLATEAUコンソーシアム第１回定例会議・第1回アドバイザリーボード・第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

MS&AD MS&ADインターリスク総研

目次

1. 会社紹介

2. 弊社ソリューション紹介およびPLATEAUの利用事例

3. 弊社目線でのPLATEAUの課題

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

会社概要①

MS＆ADインシュアランスグループは、三井住友海上グループ、あいおい損害保険株式会社、ニッセイ同和損害保険株式会社が2010年4月に経営統合し、MS＆ADインシュアランスグループホールディングス株式会社を持株会社として発足しました。

MS＆ADインシュアランスグループでは、国内損害保険事業、国内生命保険事業、海外事業、金融サービス事業、リスク関連サービス事業をドメインとして、それぞれの事業を拡大することにより、グループとして成長していきます。

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

会社概要②

■MS&ADインターリスク総研株式会社（以下、インターリスク総研）はグループの中核として、補償・保障の前後において
デジタル・データを活用した新たなサービスと事業機会を創造します

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

役割と機能

■補償・保障の前後の活動を“リスクマネジメントサイクル”と定義し、お客様のリスクマネジメントのあらゆる局面において最適なソリューションをご提供

リスクマネジメントサイクル

実施サービス

1	リスクのプロによる現状評価
2	豊富な知見に裏打ちされた リスク管理方針・体制、リスク管理対応策の提案
3	リスク管理方針・体制の実装支援、 リスク管理対応策の導入支援
4	リスク管理方針・体制、 リスク管理対応策の再評価・改善提案
5	リスクモニタリング・検知の手段提供 適切なリスク管理、迅速なリスク発生報告手段の提供
6	リスクの再発防止策支援 リスク管理の高度化支援

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

提供サービス一覧

■インターリスク総研が提供するコンサルティングメニュー一覧は以下のとおり

■本日ご紹介をさせていただく事故発生リスクAIアセスメントはモビリティメニューの一環として提供

コンサルティングメニュー一覧

- 全社的リスク管理（ERM）体制
- BCP/BCM（事業継続マネジメント）
- 安全文化・労働安全衛生
- コンプライアンス
- 人的資本/健康経営（含むメンタルヘルス・両立支援）
- サステナビリティ（ビジネスと人権/生物多様性/SDGｓ）
- 気候変動（TCFD/カーボンニュートラル）
- 防災・減災
- モビリティ
- 製品安全・食品安全
- サイバーリスク/情報セキュリティ
- 危機管理
- 医療・介護・障害福祉等
- 感染症対策
- その他

モビリティサービス一例

事故発生リスクAIアセスメント

過去の事故発生箇所だけでなく、交通事故の発生要因として重要な要素である地形、道路構造、人口・人流、運転挙動等のデータをもとにAIを活用し、交通事故発生リスクを地点（道路区分・交差点）ごとに数値化、道路地図上に可視化するサービス

運輸安全マネジメント

国土交通省が推進する運輸安全マネジメントの安全管理規定に基づくリスク管理手法に準拠して、運輸の安全について各企業の取組状況を評価して、課題と改善点を第三者の視点で評価するサービス

運転者向けセミナーVR（バーチャル・リアリティ）

参加者がVRを装着。運転中に見るべき箇所や車の死角などを確認し、運転中のヒヤッとした状況を体験していただくことによって、危険感受性を高めるセミナー

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

1. 会社紹介

2. 弊社ソリューション紹介およびPLATEAUの利用事例

3. 弊社目線でのPLATEAUの課題

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

事故発生リスクAIアセスメントの解決すべき課題

■交通事故発生後24時間以内の死亡者数（24時間死者数）2,000人以下を目指し、効果的・効率的な対策および効果検証ができるソリューションを提供

現　状

第11次交通安全基本計画

＜交通安全基本計画における目標（道路交通の安全）＞

①令和7年までに24時間死者数を2,000人以下とし、
　世界一安全な道路交通を実現する。

②令和7年までに重傷者数を22,000人以下にする。

全体的には減少傾向

交通事故死傷者数の推移※1

減少傾向ではあるものの、未だ多くの死傷者が発生

課　題

＊交通安全調査には多大な費用と時間を要すため、
　調査を実施できる数や範囲に限りがある

＊対策の優先順位がつけられない

＊実施する施策の客観的な裏づけがない

＊実施した施策の効果検証ができない

効果的・効率的な対策および効果検証が難しい

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

事故発生リスクAIアセスメントの概要

■AIによるデータ解析により事故発生リスクをマップへマーキング、危険箇所を可視化する事で安全対策に繋げる

① 事故実績・事故関連データの収集

事故実績データ、および事故の要因となりうる様々な事故関連データを収集

事故関連データ

地形　人口・人流　道路　ﾄﾞﾗﾚｺﾞﾃﾞｰﾀ　等々

② AIによるデータの解析

収集したデータをAIにより解析し、道路区間・交差点における事故発生リスクを算出

③ 事故発生リスクをマップへマーキング

算出した事故発生リスクをアプリ内の事故リスクマップ上に表示することで、危険箇所を可視化

事故発生リスク地点があるから気を付けないと！

車を運転するルート決めの参考にしよう！

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

事故発生リスクAIアセスメントの使用データ一覧とリスク値の算出方法

■事故実績だけでなく、人口・人流・ドライブレコーダー・道路・地形などの事故と関連性の高い様々なデータとPLATEAUデータをもとに、事故発生リスク値を算出

使用データ一覧

種類	データ名称	項目説明
事故実績	事故	指定した地域において、死者・負傷者数、事故・当事者種別情報を天候・時間帯別に集計したデータ
事故関連	人口・人流	モバイル端末より取得できる人流データや性別・年齢等の属性情報が付帯された人口を示すデータ
事故関連	ドライブレコーダー	弊社グループ会社が保有するドライブレコーダーデータの急加減、速度等のイベントデータ
事故関連	道路	車線数や一時停止規制有無等の道路データ
事故関連	地形	土地の利用区分と測量によって得た標高データをメッシュで区切り、その中心点の標高値を抽出したデータ
事故関連	死角	評価地点から見渡せる範囲の面積割合を算出したデータ

PLATEAU

リスク値算出方法

STEP1（評価モデルの作成）

事故実績データと事故関連データをもとに、AIを使って、事故発生リスクの高さを導き出す評価モデルを構築

入力データ

学習/評価データ収集

事故実績データ
事故

＋

事故関連データ
人口・人流　ﾄﾞﾗｲﾌﾞﾚｺｰﾀﾞｰ　道路　地形　等々

学習/評価データ

機械学習

AIの機械学習によって、事故発生確率が高い**地点の特徴を把握**

STEP 2 （リスク値算出）

モデルをもとに、道路区間・交差点ごとの事故関連データからリスク値を算出

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

事故発生リスクAIアセスメントのPLATEAU活用方法と活用イメージ

■3D都市モデルから死角データを生成しAI解析データとして活用することで、死角情報を加味した事故発生リスク評価が可能となる

PLATEAU活用方法

3D都市モデルからデータ生成

PLATEAU by MLIT

建築物モデル（LOD1以上）より
建物形状、高さ、位置情報等を取得

見通し（死角情報）を数値化

010101111‥
0101110101･･･

見通し可否を算出

学習データに加え、解析

AI解析

学習データ

事故実績データ
事故関連データ
地形 人流 走行速度‥

＋

死角

事故発生リスク値算出元のデータの
1つの要素として死角データを使用

PLATEAU活用イメージ

- **3D都市モデルから死角データを生成し、AI解析データとして活用することで、死角情報を加味した事故発生リスク評価が可能となる**

死角データ反映前

交通量が多くて、見通しが悪いにも関わらず、リスク値が低く出ている気がする･･･

死角データ反映後

見通しの要素がリスク評価に加わり、リスク値が変化＊！

＊:あくまでイメージであり、実際には他の事故に起因するデータと総合して評価されるため、死角データ反映前のデータと比べリスク値は上下することがあります

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

3DViewer導入による視覚的効果

■3DViewerは、地図を立体的に表示することが可能なため、より実態に即した情報を画面上で確認が可能

2DViewer

平面図のマップ上にリスク値をプロット

リスク値に影響を与える、道路形状、周辺環境が知りたいな

3DViewer(イメージ)

立体図のマップ上にリスク値をプロット

運転者目線の位置からリスク値の確認が可能

対策事例

- 2DViewerだと坂道に気づくことができなかったけど、**交差点は勾配**が影響してリスク値が高くなっているのか！
- 速度変化に対応できるような施策を立案しよう！

- 直進するときに、**右側の建物が死角**となっていて、人や自転車が見えにくい可能性がある…
- 実地検証をしてみて危険であればカーブミラーを設置するなどしてみよう！

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

事故発生リスクAIアセスメントの住民向け導入事例

■愛媛県のデジタル田園都市国家構想推進交付金事業に、死角要素を加えた当サービスを活用

■市民向けアプリケーション（えひめのあぷり）にて市民にも事故発生リスクの高い地点を共有し、注意喚起を実施

プロジェクト概要

- 事故発生リスクAIアセスメントを導入
- 3D都市モデルのデータを活用し、死角情報を加味した事故発生リスクを算出
- 住民向けの注意喚起の一環として“えひめのあぷり”を活用し、周知

えひめのあぷり概要

1. 住民が活用する“えひめのあぷり”に事故発生リスクの高い地点を表示することで市民へ注意喚起を実施
2. 事故発生リスクの高い地点付近に利用者がいるときにプッシュ通知をすることで注意喚起を実施

自治体担当者コメント

- リスクの客観的な可視化ができ、有益と感じている
- PLATEAUを利用した取り組みについて市民の行動変容を促す意味で良い機能だと感じている

図：えひめのあぷりのイメージ図

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

事故発生リスクAIアセスメントのユースケース事例

■通学路安全点検に活用することで、効率的かつ効果的な運用が可能

通学路安全点検の流れ	①通学路安全点検の分担	②安全点検の準備	③安全点検の実施	④結果のとりまとめ	・・・
	通達 → 通学路の分担	要確認地点の設定	通学路確認	報告書作成	
現状	持ち回りや定性情報をもとに分担	過去の知見や経験などの定性情報のみで設定された要確認地点に多くの時間をかけて点検		現場の目視確認による主観的な調査結果	
目指す姿	定量的な情報をもとにリスクの高さに応じた分担	客観的な定量情報も鑑みて設定された要確認地点に多くの時間をかけて点検		客観的な定量情報を含んだ改善要望の優先順位づけがされた調査結果	
得られる効果	✓ リスクの高い通学路に多くの人員を割くことができ、教員らの負荷を平準化できる	✓ 客観的な定量情報を用いることにより、リスクの高い要確認地点を短時間で設定・点検でき、危険個所の的確な把握および教員らの負担軽減につながる		✓ 効果の高い安全対策が実施されることにより、児童の安全を確保でき保護者の安心へつながる	

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

他ソリューションの事例紹介　～PLATEAU×洪水被害推定システムの構想～

- 洪水による被害規模を、最新技術による独自アルゴリズムで迅速に推定するサービスを紹介
- 住宅種別ごとの被害状況を可視化するために、PLATEAUデータを活用した被害推定手法を確立

目指したい姿

- 「被害調査」の負担を軽減したい
- 被害範囲や、被害件数を迅速に把握したい
  - ➢ 被害調査計画の策定に活用
  - ➢ 住民へ罹災証明を迅速に発行

現状

- 住民申請に対して個別に調査を実施
- 保険会社からの調査データも1週間程度時間がかかる

解決すべき課題

- 自治体の物件情報の属性把握
  - ➢ PLATEAUに含まれる情報活用
- 浸水範囲から浸水深への変換の高度化

概要

3D都市モデルに含まれる、建物形状・位置・高さ・地下室(有無)・建物種別を活用、建物個別の浸水深を推定することが可能

＜浸水範囲イメージ＞

＜個別の浸水深(可視化)＞

図：久留米市の3D都市モデルデータより作成

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

[ご参考] PLATEAUデータの活用イメージ

■ PLATEAUのLOD1情報を自動で抽出することで、浸水範囲内の個別建築物の浸水深を推定する

建築物情報をPLATEAUから取得

浸水範囲内の建築物を特定

個別の浸水深を推定

地域の標高データを利用して、
個別の浸水深を推定する
アルゴリズムで推定

浸水範囲情報を取得

標高データの取得

PLATEAU by MLIT

上段：久留米市の3D都市モデルデータより作成
下段(左)：浸水推定図(国土地理院：災害情報)

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

1. 会社紹介

2. 弊社ソリューション紹介およびPLATEAUの利用事例

3. 弊社目線でのPLATEAUの課題

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

課題および解決策（案）一覧

■各課題が解決されていくことで、よりPLATEAU事業の活性化に繋がると思慮

	事故発生リスクAIアセスメント		その他（洪水被害推定システム等弊社サービス全般）	
	課題（発展の余地）	解決策（案）	課題（発展の余地）	解決策（案）
データ整備範囲	1 • 一部の県警から県全体での評価をしたいとの要望を頂いている	• 全国もしくは県単位でのデータ整備	• 未整備都市にサービスを導入する際、データ整備から発生する。整備にかかる費用に加え期間も長期化するため、ビジネス化が難しい	• 全国もしくは県単位でのデータ整備
データ品質	• 3DViewerで提供する際、LOD2やLOD3があればよりリアルなViewerが作れる	• LOD2以上の実装	• 自治体等で整備されている通常の端末では、より直感的な3D体験を享受するための3Dデータ表示が難しい	• 処理方式の見直し • データ構造の見直し
	2 • 車道と歩道が区別できれば、リスク値の精度向上が見込める	• LOD2以上の実装	• 正確な建物の高さや形状が分かることで、浸水深算定の精度向上が見込める	• LOD2以上の実装
	3 • 建物以外の構造物データがあると、リスク値の精度が上がる	• PLATEAUデータの品質向上	• 建物用途の情報の欠損が減ることで、将来的に保険ビジネスとの親和性が高まる	• 欠損情報の補完
社会実装	• 各自治体の担当課毎にPLATEAUの知識や理解に差分がある。PLATEAUの認知向上を図ることでより横断的な取り組みが可能になる	• 全体の認知度向上	–	–

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

①データ整備範囲

■県単位でリスク値を評価したいニーズが多々あるため、早期に県や全国単位でのデータ整備が必要と思慮

県単位でリスク値を評価する事ができない

県単位でPLATEAUが整備されていないため、市町村によりPLATEAUデータ反映有無が発生する（県警など県全体を見据え施策を打ちたいニーズに対し対応できていない）

データ整備から必要なため、ビジネス化が難しい

未整備都市にサービスを導入する際、PLATEAUデータの整備から発生する。整備にかかる費用に加え期間も長期化するため、ビジネス化が難しい

解決策（案） 県や全国単位でのデータ整備

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

②データ品質　LOD2以上の実装

■LOD2以上の実装によって、道路内の構造が細分化され、データ品質の高度化が可能。リスク値精度向上の寄与に期待

	イメージ	道路内構造	現場の声
LOD1		**区別不可**	歩行者を対象としたユースケースの実装が難しい… 車道と歩道が区別出来ないから歩行者目線のリスクが反映されていない気がする…
LOD2		**区別可能** ➢ 車道、車道交差部、歩道、分離帯	ユースケースの幅が広がった！ リスクの評価結果がより、実態に即した値に精緻化された！

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

③データ品質　PLATEAUデータの品質向上

■道路空間に存在する建物以外の構造物データを追加定義することで、実態に近しい死角データを構成できる可能性

	イメージ	道路内構造	現場の声
LOD1		各種構造物データ無し	リスク値がそこまで高くないのに事故発生実績の数が多い….
LOD2/3		建物以外の構造物データの追加 • 塀 • 柵 • ブロック　等	なるほど!ブロック塀が死角になっていたのか！

© MS&AD InterRisk Research & Consulting, Inc.

MS&AD

MS&ADインターリスク総研

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III.アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV. PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI. オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

オープンデータ利用の現状と課題
ゲームエンジン利用における活用事例・課題

PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/
第1回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

PLATEAU
by MLIT

PLATEAU Window

チームPLATEAU Window’s
鈴木裕之・河野　円

What's “PLATEAU Window”

まだ見ぬ風景の価値を創造するお手伝い

建設前の高層ビルから見える風景をシミュレーションできるアプリケーション、不動産価値創造のお手伝い

PLATEAU Windowが解決する問題

商業ビルテナント営業はビルの工事前から始まるそうです。
景観や日の当たり方は、価格設定をする際に尺度の一つとなります。
また、テナント側としては業態と物件が合っているかの重要な判断基準になります。
しかし、実際の建物がないので、平面図で検討する事が多く、判断材料としては解像度が低いため
どうしても風景が必要な場合はクレーンなどを利用して、営業資料用写真を撮影する事もあるそうです。

PLATEAU Windowは正確なデータを使用して、風景・日照のシミュレーションをフォトリアルな表現でリアルタイムにご提供します。
「まだ見ぬ風景の価値を創造するお手伝い」をいたします。

チーム

PLATEAU Window’sは2022年にPLATEAU Hack Challenge 2022で初めて出会いチームを組みました。
本システムはハッカソンにて開発したものです。

チーム　PLATEAU Window’s

受賞歴
2022年　PLATEAU Hack Challenge 2022　CityGML賞受賞
　　PLATEAUアワード2022　PLATEAU賞受賞

鈴木裕之

奈良県出身
WEBエンジニアを経てVR/ARエンジニア・ディレクターとして
様々なプロジェクトに携わる

河野　円

2020年、imgee株式会社設立
「時空とココロをテクノロジアートでつなぐ」を実現するため
様々なテクノロジーと映像表現の融合を実現している

受賞歴
2019年 デジタルサイネージアワード2019 クリエイティブ部門 受賞
2020年 次世代映像アワード MADD.2020・2021　二年連続　審査員特別賞 受賞
2023年 第11回 国際科学映像祭ドームフェスタ「ショートフィルムコンテスト」銀賞 受賞
　　PLATEAU Hack Challenge 2023　PLATEAU賞受賞　等

展示・実演・登壇実績
2019年　ニコニコ超会議（以降5年連続出演）
　　interBEE　招待出展
2020年　東京都現代美術館　おさなごころをきみに展にて上映
2021年　SIGGRAPH Asia 2021のSpecial Programにて上映
2022年　巨大LEDビジョンによるオーディオビジュアルイベント Hyper Geek 出演 （以降４回出演）
　　文化庁支援事業　AFF　仏教美術×テクノロジーアート　企画・運営
2023年　PLATEAU Hands-on　TouchDesignerによるPLATEAU活用の基本にて登壇　等

目次

1. PLATEAUのコミュニティの魅力
2. PLATEAU Windowの詳細
3. 今後のPLATEAUに期待する事（修正してほしい事）
4. 我々が考えるPLATEAUの未来

PLATEAUコミュニティの魅力

ハッカソン・ワークショップについて

PLATEAUコミュニティの魅力

https://asciistartup.connpass.com/event/283796/

https://www.mlit.go.jp/plateau/journal/j039/

国土交通省のハッカソンでは、システムエンジニアだけではなく、デザイナー・プロデューサーなどといった、普段ハッカソンとあまりかかわりの無い人にも、参加の機会が用意されています。
また、コミュニティ自体も他業種の方に対してウェルカムで、ハッカソン後もSNSなどを通じ交流が続いています。

実際、河野は、PLATEAUのデータを３D映像素材として使用していた映像クリエイターでしたが、コミュニティを通じ、様々な知見を得ると同時にPLATEAUの新たな可能性を感じ取ることができました。

熱海市伊豆山土石流災害について

PLATEAUコミュニティの魅力

朝日新聞 DIGITAL

パレスチナ情勢　ウクライナ　速報　朝刊　夕刊

トップ　社会　経済　政治　国際　スポーツ　オピニオン　IT・科学　文化・芸能

朝日新聞デジタル ＞ 記事

News Data Watch

「盛り土」指摘は有志チーム　早い把握「時代変わった」

有料記事　ニュースデータウォッチ

篠健一郎　2021年7月27日 11時30分

list　46

静岡県熱海市 の大規模な 土石流 災害は、起点周辺にあった開発による「盛り土」が原因とされている。この盛り土の存在をその日のうちに突き止め、翌日の県の発表につなげたのは、発生直後に集まった有志の専門家グループだった。

静岡県 建設政策課の杉本直也さん（49）は、3日午前10時50分ごろ、外出先で土石流発生のニュース速報を目にした。

前日から、 伊豆半島 では 土砂災害 による通行止めが発生していると伝えられていた。土木技術職で採用され、過去にも土石流災害の対応を経験していた杉本さんは「被害が広範囲に及ぶのでは」と感じた。

静岡県が2019年に測量したデータと、国土地理院が公表した09年の測量データの差分を表示した地形図の画面。10年間で土の量の増えた所が茶や赤、減った所が青で表示され、左上の土石流の起点付近で10メートルを越える厚さで土が積み上がっていたことがわかった＝鈴木雄介さん提供

https://asciistartup.connpass.com/event/283796/

コミュニティに関係し続ける魅力がもう一つあります。それは、有事の際に自分も貢献できる可能性があることです。
2021年7月3日午前に発生した土砂災害は土石流の起点付近に厚さ10メートルを越える盛り土があったことを3日夜までに解析しました。翌朝までにその土の量が約5万4千立方メートルに上ると計算しました。
これは、県庁職員３名を含む計16人の有志のチームによって、ドローンで撮影した映像やSNS上の画像などを元に測定されました。
コミュニティに関わり続け、日々様々な意見交換をすることで、有事の際に我々も貢献できる可能性があることも、コミュニティの魅力の一つだと思います。

PLATEAU Windowの詳細

主に使用しているソフト等

PLATEAU Windowの詳細

PLATEAU WindowはUnreal EngineとCesiumを利用して製作しています。

機能紹介動画
https://youtu.be/fEQAvwdN85g

PLATEAU Windowの機能

PLATEAU Windowの詳細

スマホで操作可能

URLをクリックするだけで、いつでも簡単にシミュレーションできます。

日照シミュレーション

24時間365日の日照シミュレーションを瞬時に行えます。

天気の再現

晴れ・曇り・雨・雪など天候を操作できます。

内観シミュレーション

FORTNITEの様に、自由に歩けて家具の設置も可能です。

ドローンの様に

外観シミュレーションをドローンを操作する様に自由に行えます。

風景シミュレーション

各フロアからの風景を簡単にシミュレーションできます。

マーキング

指定したビルのみをマーキングする操作も可能です。

動画書き出し

フォトリアルで高画質な動画を書き出し可能です。

スマホで簡単操作・天気を再現

PLATEAU Windowの詳細

スマホで簡単操作

ゲーミングエンジンを使用して製作しているため、スマートフォン用にアプリケーションを製作する事が可能です。
これにより、PLATEAUのデータをだれでも簡単に操作する事ができます。

天気を再現

ゲーミングエンジンには、天気を再現するアセットがあるため、様々な天候をリアルに再現する事が可能です。

https://youtu.be/fEQAvwdN85g

内観シミュレーション

PLATEAU Windowの詳細

ゲーミングエンジンを使用してアプリケーションを製作しているため、FORTNITEの様に、室内を自由に移動でき、壁や机などの設置・移動が可能です。
従業員数に対する必要な平米数計算や、太陽光がオフィスに当たる影響のシミュレーションも可能で、経営計画などの作成にも役立ちます。
また、すでに建築済みのビルに関しては、Matterportで内観データを作成しPLATEAU Windowに入れる事で、リアルなデジタルツインを素早く実現できます。

日照シミュレーション

PLATEAU Windowの詳細

ゲーミングエンジン内では太陽の軌道を再現する事ができます。
また、PLATEAUは国土交通省が保証する信頼性が高いデータであり、二つを融合する事で、日照シュミレーションが可能だという事も分かりました。

ゲーミングエンジン内での再現

差分
赤枠をシミュレーションから生成した線

実際の風景

ドローンの様に

PLATEAU Windowの詳細

低い位置からのシミュレーションはマテリアルの表現に限界を感じますし、地面に近い部分になると、街路樹などのデータが無いため、再現度は低い物になります。

しかし、PLATEAUのデータは航空写真を元に、マテリアルを作られていると聞いた事があります。
そのため、高い位置からの風景はとても綺麗に表現できます。

また、高層階からのシミュレーションも同様にPLATEAUのデータのみで綺麗な表現が可能で、高層ビルでのシミュレーションやドローンシミュレーションなどにはとても適した素材ではないかと思います。

動画書き出し

PLATEAU Windowの詳細

https://youtu.be/VVZzahrbid8

詳細な建物形状を提供する区域は一部に限られ、PLATEAUデータだけで都市ビジュアルを再現するには限界がありました。
現状のギャップを埋めるために、PLATEAU Windowでは周辺景観の描画にCesiumプラットフォームを採用しています。
Cesiumは、WGS84グローブに基づいた高精度な地形データを利用し、都内から見える富士山など、遥か遠くの地形も軽快に再現できます。
更に多彩な種類のデータが利用可能で、例えばOpenStreetMapが提供する建物データは形状こそ簡素ですが提供範囲が広く、工夫次第でビルらしいビジュアルを表現できます。
また2023年に提供開始されたGogle Photorealistic 3D Tilesでは、Google Earth等でも使われる3D地図ビジュアルを利用でき、軽量かつ高速にリッチな都市景観を再現できます。
これらの技術を利用し、フォトリアルな映像表現を実現しています。

マーキング

PLATEAU Windowの詳細

属性情報から、ビルの高さ情報・建築年数等を読み出し
表現することも可能です。

これらは、PLATEAUだから表現できるものです。

今後のPLATEAUに期待する事

（修正してほしい事）

点群データの公開

今後のPLATEAUに期待する事

PLATEAU Windowは高層階からの再現性はとても高いのですが、

低層階の再現性には限界を感じております。

これは、低層部分のテキスタイルの解像度の低さや、樹木等が無いためだと考えます。

点群データには、街路樹や電線も残っているため、低層階からの風景もリアルで、日照シミュレーション等もより高精度に行えます。

また、LOD1のみ公開されているエリアでも、点群データを扱うことによってLOD2の公開を待つまでもなくPLATEAU単体での高品質で高精度なシミュレーションが可能となるのではないかと考えます。

PLATEAU SDK(for unity, Unreal)の拡充

今後のPLATEAUに期待する事

様々なデータ変換処理が必要だったPLATEAUデータを、簡単に利用できるPLATEAU SDKはとても使い勝手が良く活用させて頂いています。
引き続きの更新でも十分に嬉しいのですが、さらなる期待として数点挙げさせて頂きます。

2023/12/19追記：以下はPLATEAU SDK for UNREALに基づいて書きました。
現在、PLATEAU SDK UNITY TOOLKITの登場により
多くにおいて解決しているかと存じます。

精力的なアップデートに改めて感謝の念をお伝え致しますとともに、
発表時においての理解不足がありましたことお詫び申し上げます。

PLATEAU SDK(for unity, Unreal)の拡充①

今後のPLATEAUに期待する事

リアルタイムで都市データをダウンロードする機能

現状アプリ内にデータを組み込む形のため、対象地域が拡大すればアプリが肥大します。PLATEAU Viewのようにアプリ実行中にデータをダウンロードできれば、幅広い都市計画に適した汎用性の高いアプリを構築できるのではと思います。

2023/12/19追記：
Cesiumでランタイムにダウンロードする機能はCESIUM+PLATEAUストリーミング配信機能でほぼ実現できます。
本稿は、PLATEAU SDKのインポート（属性情報の付いた平面直角座標系のモデルインポート）のランタイム化を期待したものです。

PLATEAU SDK(for unity, Unreal)の拡充②

今後のPLATEAUに期待する事

遠景の表現問題

遠くの地形やビル群を表現するにあたっては現状Cesiumを利用することが有力な選択肢となりますが、提供する測地系の違いなどはハードルになります。

都市データを世界測地系に基づいた座標値でも展開できればCesium等他プラットフォームと相性が良くなるのではと思います。

2023/12/19追記：
PLATEAU-SDK-Toolkits-for-Unityのソフト設計、位置合わせ機能が該当しています。
UEへのフル機能実装も是非期待しております！

PLATEAU SDK(for unity, Unreal)の拡充③

今後のPLATEAUに期待する事

詳細ドキュメントの拡充、勉強会の開催

コア部分の実装を確認してカスタマイズするのはハードルが高く、エンジニアに向けたカスタマイズ方法の勉強会などがあれば喜んで参加致します。

主要施設、ランドマークのLOD詳細化

今後のPLATEAUに期待する事

https://www.mlit.go.jp/plateau/learning/tpc01-2/

主要な施設、ランドマークは人通りも多く、利用する方もアプリとして開発した際に多くの方の役に立つ可能性があります。
また、新宿駅・渋谷駅などは、平面図では理解できないほど複雑で、３Ｄモデルが役に立つ場面ではないかと考えます。

設計時のデータなどを、PLATEAUに加える事で多くの人々のQOL向上に繋がるのではないかと考えます。

我々も高ＬＯＤデータの活用事例や実装方法を多く発表できればと思います。

民間による構築/アップロードプラットフォーム

今後のPLATEAUに期待する事

みんキャプ

「みんキャプ」は、みんなで今を切り撮って、保存して、共有して楽しむムーブメントです。 写真技術が発達してたくさんの風景が残されて伝わったように。
デジカメが生まれて、気軽に日常を残すことが出来るようになったように。

街の課題を記録して共有する仕組み

今まで、各学校で製作していた通学路の安全マップを
PLATEAUに統一することで、学区を超えた安全マップを製作する事が可能なる。

ハッカソンを通じて、PLATEAUの様々な利用方法を知りました。
その中には、PLATEAUのデータに個人で取得した３Dデータを加えて市民の生活レベル向上に繋げようとしている物がありました。

現在は各エンジニアが独自でプラットフォームを作成する必要があり技術力が必要な開発ですが、

不動産IDなどや空間IDなどを利用してアップロードでき、官民で使用できるプラットフォームができることで、不動産データベースと連携や学校の研究や授業で街を構築、市民レベルでの街づくりへの参加などが期待できるのではないかと考えます。

我々が考えるPLATEAUの未来

三次元が当たり前の世代

我々が考えるPLATEAUの未来

小学生の頃、ゲームといえばスーパーマリオなど横スクロール・縦スクロールのどちらか一方に進みジャンプなどで敵をかわしながら、ゴールに進むゲームばかりでした。
しかし、昨今のゲームと言えば、Fortniteやマインクラフトなど、我々の世代のX・Y軸の２次元的ではなく、X・Y・Z軸の３次元で作られた世界です。
二次元操作をするために作られたマウスを、キーボードと並行して使う事で３次元空間の中を自由に移動してとてつもないスピードで建築物や様々な仕組み、ゲームなどを独自で作り上げていきます。

また、Fortniteやマインクラフトの世界には、ＭＯＤと呼ばれる、利用者が独自に作ったプラグインを公開・共有や販売できる仕組みがあります。幼少期から損得勘定ではなく、好奇心で様々な技術を取り入れ公開している彼らが、PLATEAUを利用する事で、異次元なDX化が進むのではないかと考えます。

三次元空間の価値創造

我々が考えるPLATEAUの未来

生活の利便性で土地の価格は変動します。例えば、主要な駅に近ければ、自然と不動産価値は上がっていきます。
ドローンによる配達や空飛ぶ車が実現すると、居住快適度・広告の優位性などは従来とは異なる価値観が生まれると考えます。

PLATEAU・スマート都市モデルには高さ情報が含まれており、すでにドローンの飛行経路計算などに利用されている事を考えると、
PLATEAU自体が不動産価値を予測するツールになるのではないかと考えます。

PLATEAU Window’sは

「PLATEAUと関わり続け、社会に役立つ事を行いPLATEAUを広めたい」

という思いで活動を続けています。

https://note.com/plateau_windows

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III.アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV. PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI. オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

オープンデータ利用の現状と課題
建設業界における活用事例・課題

大林組 湯淺 知英

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/
第1回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

PLATEAU
by MLIT

2023/12/15 PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議 / 第1回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

建設DXで現場における生産プロセスを変革します

DX銘柄2023
Digital Transformation

建設業界における活用事例・課題
～建設段階のデジタルツイン活用～

株式会社大林組
土木本部 先端技術推進室 技術開発部 /
DX本部 生産デジタル部
湯淺知英

yuasa.tomohide@obayashi.co.jp

OBAYASHI
MAKE BEYOND
つくるを拓く

01

活用事例

BIMからDXの実現ステップ

2021
BPR(業務プロセス変革)
一気通貫情報システム

BIMの進化

- 鉄骨デジタル承認
- 次世代型生産設計図
- 工事進捗管理システム (ProMie) 2019

2010
Digitization
マルチプラットフォームによる
モデル活用

2017~2018

One Model

Digitalization
データ連携

2020

Digital X-formation
情報の構造化

2021~
建設PLM
生産情報と
経営情報の融合
Product Lifecycle Management

2024年度末
3D生産
基盤へ
の移行

データ統合

2018
SBS
Smart BIM Standard
大林組モデリング標準

2020
部材coding
SBC
Smart BIM Connection
SBSモデリング管理ツール

2020~
BOM api
(Bill of Materials)
部品情報抽出するapi

2023
データレイク
/DWH計画

MAKE BEYOND
つくるを拓く

建設DXの実現ステップ

建設におけるデジタルツインとは

現実世界

コンピュータの世界

開発中のDTアプリ「CONNECTIA™」概要

アプリ層

デジタルツインアプリ「CONNECTIA™」

連携基盤層

データ・システム基盤（OS）

データ取得層

①設計BIM/CIM

②地形・点群データ

③PLATEAUモデル

センサ内蔵ヘルメット
位置情報他

⑤ヒトのデータ
リアルタイムな位置、
生体情報他

車両位置管理システム

⑥重機・車両のデータ
リアルタイムな位置、
速度技術他

静的情報（動かないデータ）

動的情報（動くデータ）

アプリの紹介動画

建設DXで現場に
おける生産プロセス
を変革します
DX銘柄2023
次世代デジタルツインアプリ
CONNECTIA™
（コネクティア）
OBAYASHI

PLATEAUモデルを含む活用例

現状は「建築物LOD1」を主に利用

活用例①
発注者説明や協議資料への活用

●3次元モデルの統合により圧倒的に分かりやすい資料に
●任意な視点変更などがプレゼン中に可能

活用例②
事前の施工検討、シミュレート

●近隣建物や架空線との干渉状態の把握、車両配置検討
●作業手順書や指示書の作成補助

活用例③
地下埋設状況の確認・対応

●地下埋設設備のモデル化で土留め干渉等を把握
●埋設管理会社や連絡先情報をモデルに付与して管理

活用例

活用例①
発注者説明や協議資料への活用

・工事概要や近隣影響説明の場で現場周辺を含む3次元モデルを活用することで理解や協議の迅速化。
・住民や公園、学校周辺での対策説明や利用者視点での説明に活用
・仮設備の設置や景観に関して住民協議する際、対策案の説明が明瞭・明確化し合意形成の迅速化や効率化

活用例

活用例②
事前の施工検討、シミュレート

- 周辺道路を夜間閉鎖しての作業や、民地との敷地境界での架設作業などの施工検討や作業指示書作成業務等に活用
- 作業手順周知会等で周辺環境モデルがあることでリスクを事前予知、対応可能

活用例

活用例③
地下埋設状況の確認・対応

- 施工時の干渉や対策案の立案に極めて有効
- 官公庁への協議資料作成、発注者説明資料の作成効率と明確化
- 埋設データに管理会社や連絡先情報(例:○○水道局○○課)が事前付与の可能性あり

02

課題

課題

(1)PLATEAUデータの取得に関して
・形式変換(CityGMLから変換)・SDKの活用(座標変換)

	オフセット値	X=0 Y=0 Z=0		X=-15122.4026380091 Y=0 Z=-31182.6406240729	
	座標変換	Local	Plane Cartesian	Local	Plane Cartesian
座標軸	EUN	x=-15192.068 y=33.702 z=-31318.125	x=-15192.068 y=33.702 z=-31318.125	x=-69.666 y=38.034 z=-135.485	x=-15192.069 y=38.034 z=-31318.126
	WUN	x=-15192.068 y=33.702 z=-31318.125	x=-15192.068 y=33.702 z=-31318.125	x=-69.666 y=38.034 z=-135.485	x=-15192.069 y=38.034 z=-31318.126
	ESU	x=-15192.068 y=33.702 z=-31318.125	x=-15192.068 y=33.702 z=-31318.125	x=-69.666 y=38.034 z=-135.485	x=-15192.069 y=38.034 z=-31318.126
	EUN	x=-15192.068 y=33.702 z=-31318.125	x=-15192.068 y=33.702 z=-31318.125	x=-69.666 y=38.034 z=-135.485	x=-15192.069 y=38.034 z=-31318.126

＊目標座標

＊座標結果一覧

＊NavisWorksで読み込むとすべてのパターンにおいて座標値が一致しない

使用エディター:PLATEAU SDK for UNITYver2021.3.30f1

課題

（2）情報項目の種類や粒度に関して
・情報のサイロ化と分析・出力機能

＊地下に関する情報が有益
＊複数情報の統合や可視化が必須であるが、
Plateau View App等だけでは実現できない

課題

(3)PLATEAU上にデータ付与できない課題
・事業者側からデータを提供でき進化に寄与できない

別事例)建設現場内での重機、車両、そして人の位置情報(移動体位置情報)を把握したい⇒ 中継機能とAPIを利用して基盤に統合

デジタルツインアプリの基盤システム

他の業務やアプリでのデータ活用が見込まれる場合、データ項目を

<u>基盤側データベース上で定義しておく作業が必要</u>

データ基盤の基幹部分にFIWAREおよびNext Generation Service Interfaces(NGSI)を、アプリ連携するデータ構造として採用した。

データモデルは主に「エンティティ」と
「コンテキスト(アトリビュートやメタデータ)」に分かれる

① データ登録・利用エンジニアが主体的にデータ構造を定義できる
② データ項目の追加や変更がAPI のみで実現できる
③ API のドキュメントもシンプルとなり, データ登録・利用側エンジニアは個別の API を覚える必要が無く開発効率が良くなる

参考文献

1)小澤一雅, 東京大学 i-Construction システム学寄付講座:i-Constructionシステム学, pp.5-6, 技報堂出版, 2021
2)山中孝文, 湯淺知英, 小澤一雅:データ・システム連携基盤を活用した施工管理システムの開発と協調領域への展開, 第4回「i-Constructionの推進に関するシンポジウム」, pp21-24, 2022
3)元村亜紀, 湯淺知英, 小澤一雅:CPSを活用した施工管理のためのオープンプラットフォームの実装, 土木施工1月号(VOL.63 No.1), pp.82-85, 2022
4)元村亜紀, 湯淺知英, 山中哲志:建設施工段階の汎用的なデジタルツインの実現－CPS 施工管理システムの開発－, AI・データサイエンス論文集, 第 4 巻 2 号, pp.89-96, 2023
5)湯淺知英, 山中哲志:「建設施工段階における汎用デジタルツインの構築とその実務利用」,建設機械施工, 2023/7
6)山中哲志, 湯淺知英, 西川輝ら:建設施工段階におけるデジタルツインを 構成するデータ基盤の開発, AI・データサイエンス論文集, 2023
7)研究開発戦略センター, 調査報告書 デジタルツインに関する国内外の研究開発動向, CRDS-FY2021-RR-09, 2022
8)青谷和真, 川村地平, 塚田学, 落合秀也, 江崎浩:デジタルツイン基盤とその 3D データ活用,マルチメディア, 分散, 協調とモバイル(DICOMO2021)シンポジウム, pp.1120-1126, 2021
9)亀田敏弘, 松下文哉:持続可能な社会基盤データアクセスに向けた API 開発の効率化に関する基礎的研究, AI データサイエンスシンポジウム論文集, 第3巻2号, pp.128-133, 2022
10)松本一郎:NGSIで日本のデータ流通を加速する, https://businessnetwork.jp/article/6993/, (入手 2023.6.22)
11)菊池俊介:誰でもできるスマートシティ向け OSS:FIWARE のはじめかた, https://www.slideshare.net/ShunsukeKikuchi1/oss-fiware, (入手 2023.6.19)
12) Jose M.C.F:NGSI によるデータ・モデリング-FIWARE Wednesday Webinar, https://www.slideshare.net/fisuda/fiware-webinar-datamodelling-with-ngsi, (入手 2023.6.19)

ご清聴ありがとうございました

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III.アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV.PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI.オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

マッチング支援イベント＃2の開催報告

アクセンチュア 増田 暁仁

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/
第1回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

PLATEAU
by MLIT

Project PLATEAU

Ⅶ. マッチング支援イベント#2開催報告

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/
第１回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023/12/15

Map the New World.

Accenture Strategy & Consulting

3D都市モデル整備・活用に向けたマッチング支援イベントの目的

3D都市モデルの整備・活用を促進するために、補助金説明会に加え、自治体と事業者の協業実現・検討具体化に向けたニーズ・シーズのすり合わせ機会をご用意

3D都市モデル整備・活用に関する説明会（補助金説明会）

補助金事業の内容に加え
補助金活用までのハードルの乗り越え方や
政策活用手法をご紹介する

- ベストプラクティス理解により整備・UC開発ニーズが顕在化する
- 予算面でのHow toがわかる

3D都市モデル整備・活用に向けたマッチング支援会

ユースケース開発ができる事業者との
QAを経て実装方法のイメージをもってもらう
・事業者とのコネクションを作ってもらう

- 検討パートナーを識別し、UC具体化・外部検討リソース確保のキッカケを構築できる

第2回マッチング支援イベント　概要

ユースケース創出に向けた検討具体化を支援することを目的に、自治体からのニーズ説明、事業者からのシーズ説明を実施

第1回との差分

イベントの狙い	3D都市モデルの活用ニーズのある自治体と、対応するシーズを持つ事業者で、 意見交換・マッチングを行い、ユースケース創出に向けた検討具体化を支援する
対象テーマ	①防災、②都市計画（人流・交通解析）、 ③都市計画（**行政DX**、シビックテック、**カーボンニュートラル**）、④XR×観光
参加者	• 事業者とのマッチングを希望する自治体、関心のある自治体 • 3D都市モデルを活用したサービスを提供する事業者
日時	• 第2回マッチング支援イベント：**10/23(月)・10/24(火)・10/25(水)・10/26(木)** • **個別マッチングDay：10/31(火)**※1 - 継続して、個別にもフォローを実施

※1: 当該日時に都合のつかない自治体・事業者については個別マッチングDayの後に別日でマッチングを設定

第2回マッチング支援イベント タイムテーブル

	Day1 (10/23)				Day2 (10/24)				Day3 (10/25)				Day4 (10/26)			
	防災	開始	終了	時間	都市計画（人流・交通解析）	開始	終了	時間	都市計画（行政DX・シビックテック）、カーボンニュートラル	開始	終了	時間	観光×XR	開始	終了	時間
1. 本日の位置づけ		13:00	13:10	0:10		13:00	13:10	0:10		13:00	13:10	0:10		13:00	13:10	0:10
2. 自治体ニーズ説明	岩手県宮古市	13:10	13:15	0:05	岐阜県岐阜市	13:10	13:15	0:05	福井県敦賀市	13:10	13:15	0:05	広島県	13:10	13:15	0:05
	長野県安曇野市	13:15	13:20	0:05	山口県周南市	13:15	13:20	0:05	大阪府大阪市	13:15	13:20	0:05	長野県安曇野市	13:15	13:20	0:05
	滋賀県	13:20	13:25	0:05					岡山県岡山市	13:20	13:25	0:05				
	大分県佐伯市	13:25	13:30	0:05					大分県佐伯市	13:25	13:30	0:05				
	大阪府堺市	13:30	13:35	0:05												
3. 事業者シーズ紹介	福山コンサルタント	13:35	14:00	0:25	構造計画研究所	13:20	13:45	0:25	アジア航測	13:30	13:55	0:25	シナスタジア	13:20	13:50	0:30
	ライテック	14:00	14:25	0:25	計量計画研究所	13:45	14:10	0:25	アルテアエンジニアリング	13:55	14:20	0:25	Psychic VR Lab	13:50	14:20	0:30
	パシフィックコンサルタンツ	14:25	14:50	0:25	国際航業	14:10	14:35	0:25	インフォ・ラウンジ	14:20	14:45	0:25	ホロラボ	14:20	14:50	0:30
	構造計画研究所	14:50	15:15	0:25	MS&ADインターリスク総研	14:35	15:00	0:25	ホロラボ	14:45	15:10	0:25	Eukarya	14:50	15:20	0:30
	Eukarya	15:15	15:40	0:25	フォーラムエイト	15:00	15:25	0:25	パナソニック	15:10	15:35	0:25	モンドリアン ※調整中	15:20	15:50	0:30
	東京海上日動火災保険＋日本工営	15:40	16:05	0:25	ESRIジャパン	15:25	15:50	0:25	シナスタジア	15:35	16:00	0:25				
	フォーラムエイト	16:05	16:15	0:10	Eukarya	15:50	16:00	0:10								
4. 全体質疑		16:15	16:30	0:15		16:00	16:15	0:15		16:00	16:15	0:15		15:50	16:15	0:25
5. 今後の進め方		16:30	16:45	0:15		16:15	16:30	0:15		16:15	16:30	0:15		16:15	16:30	0:15

イベント参加実績

本イベントでは前回比で参加自治体数が減少したものの、マッチングした自治体数、件数ともに前回イベントよりも多い結果となった

	第一回マッチング支援イベント	第二回マッチング支援イベント
参加自治体数	71	62
事業者との討議に関心を持った自治体数	21(30%)	36(60%)
マッチング実績 自治体数	7(10%)	**10(16%)**
マッチング実績 延べ件数	11	**20**

イベント参加実績（「県/地方整備局、市区町村」分類）

参加実績としてはDay1およびDay2への参加者が多く、関心が高く集められた

第一回と第二回イベントの比較

第二回イベントの各日の参加者数

イベント参加実績（「整備状況」分類）

参加自治体の整備状況としては第一回同様に整備済み自治体が半数弱を占めた

イベントに対する自治体からの5段階評価（コメント抜粋）

本イベントから新しく取り入れた5段階評価においては本イベントに対しての評価が高い「評価5」、「評価4」が自治体の過半数を占める結果となった

自治体回答

自治体例と代表的なコメント

評価5

- UC開発の道筋が理解でき、モヤモヤが取り払えた
- UC紹介も多く、テーマごとに複数日に分かれていてよかった
- UC開発のアイデア出しに苦労していたため参考になった

評価1

- 事前に発表内容を共有してほしい
- 自治体発表は急かされており、事業者発表は時間が余っていたので時間配分に違和感を感じた

登壇事業者への関心

防災、人流・交通解析分野は整備状況を問わず実装のニーズが高い。他方で、まちづくり、観光×XR分野は整備済の自治体等が更なる活用を検討する際のテーマと捉えられている可能性がある

整備済（今年度整備中を含む） 来年度整備予定 整備検討中 整備予定なし

#	カテゴリ	関心獲得率(%)	関心獲得数(件)
1	Day1 防災 (n=34)	42	14
2		21	7
3		15	5
4		21	7
5		27	9
6		21	7
7		12	4
8	Day2 人流・交通解析 (n=34)	34	11
9		25	8
10		22	7
11		13	4
12		34	11
13		25	8
14		6	2

#	カテゴリ	関心獲得率(%)	関心獲得数(件)
15	Day3 まちづくり (n=28)	22	6
16		11	3
17		26	7
18		26	7
19		22	6
20		11	3
21	Day4 観光×XR (n=11)	27	3
22		36	4
23		18	2
24		9	1
25		36	4

マッチング希望自治体の割合

1回目と2回目は、自治体の予算化検討の具体度が異なるため、意見交換ニーズの総量は減少したものの、個別に意見交換をした実績は前回比で延べで3倍

	第一回イベント	第二回イベント
「ぜひ意見交換してみたい」	21自治体(30%) ※個別討議は上記の内7団体が実施	**10自治体(16%)** ※個別討議は上記全て実施し延べ20回開催
「今後機会があれば意見交換してみたい」	（第一回は回答として設けず）	27自治体(44%)
「特に相談したいとは思わない」	49自治体(70%)	**25自治体(40%)**

イベントの良かった点

前回比で事業者のユースケース紹介・提案について良かったと考える自治体数割合が向上した

整備・活用における課題

前回比で維持管理コストや個人情報取り扱いに関する課題を抱える自治体数が減少し、庁内の知見や体制不足で企画立案ができないと考える自治体が増加した

求める支援

前回と比較して、「活用事例紹介や自治体Q&Aなどの情報提供」を求める声は減少し、3D都市モデルに関する「技術的な研修・勉強会の実施」を求める声が増えている

イベントの改善要望

発表内容に関しての改善要望としては費用面に関する言及を多くしてほしいという要望があり、運営関連では全体的な時間配分に係る見直しの声が一定数上がっている

今後の活動について（事務局見解）

資金面では実装に対する補助の拡充、知識面では既存ガイドの利活用・ハンズオン支援の拡充、ネットワーク面ではより手軽なイベント開催が望ましいか

現在の状況

- 先進的な取組への参画機運が醸成されている自治体の整備が進みつつある
- まだ本PJへの参画が検討中な自治体を巻き込むべきフェーズに来ている

今度の自治体に対する支援の在り方

費用・効果	**“サービス実装”に対するサポートが必要 ➡ 特に安価なサービスや自治体本業を効率化するサービスなど** • より安価なパッケージ型のユースケースや、自治体の本業業務を支援するサービス開発が必要 • 補助金制度との連動も
知識	**既存ガイドブックの利活用＋ハンズオンでの支援を増強することが必要か** • 既存のドキュメントの有用性は高いものの、これから始める方にとっては情報過多の可能性もある。「3D都市モデルは難しい」という心理的障壁を下げるような、Essential版の普及や気軽に相談できる機会の提供が必要か • 意志のある自治体に対して、現状のハンズオン支援の拡大も必要か
ネットワーク	**自治体と事業者が気軽に直接接点を持てるようなイベントを開催するのが良いか** • これまでのマッチングイベントは、タイトルも相俟って、ニーズを明確に伝えられない、連絡を取ったら発注に繋げなければならないのではと尻込みする自治体も多い • 展示会での名刺交換のような形で、より気軽に参加しQAができる、接点を持てるようなイベント設定したほうがが、熟度が浅い自治体のニーズには沿っていのではないか

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/第1回アドバイザリーボード/第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会　議事次第

日時：令和5年12月15日（金）14:00 - 16:30

I.　PLATEAUコンソーシアム事務局長挨拶[5分]	AIGID 関本事務局長
II.　PLATEAUコンソーシアム設立について[15分]	AIGID 関本事務局長
III.アドバイザリーボード座長挨拶[5分]	青山学院大学 古橋座長
IV.PLATEAUの中長期ビジョンロードマップ共有[10分]	都市局 内山企画調整官
V.　PJ-PLATEAUの進捗状況共有[10分×3]	
・ PLATEAU VIEW3.0のリリースについて	Eukarya 馬場 英道
・ PLATEAU SDK2.0のリリースについて	Synesthesias 有年 亮博
・ QGISプラグイン開発状況	MIERUNE 久納 敏矢
VI.オープンデータ利用の現状と課題[20分×3]	
・ 損保業界における活用事例・課題	MS＆ADインターリスク総研 芝田 達郎
・ ゲームエンジン利用における活用事例・課題	PLATEAU Window’s 鈴木 裕之・河野 円
・ 建設業界における活用事例・課題	大林組 湯淺 知英
VII.マッチング支援イベント＃2の開催報告[10分]	アクセンチュア 増田 暁仁
VIII.総合討議 [15分]	出席者全体

総合討議

PLATEAUコンソーシアム第1回定例会議/
第1回アドバイザリーボード/
第12回3D都市モデルの整備・活用促進に関する検討分科会

2023年12月15日

PLATEAU
by MLIT

事務局連絡

次回開催予定

- 日時：**令和6年3月15日開催予定（最大2時間を想定）**
- 開催方法：web中心で開催予定
- 開催案内：登録頂いた各団体担当者宛にメールで連絡予定

次回の主なアジェンダ

- 下記アジェンダを予定
  ① 令和5年度PLATEAU取組成果報告
  ② 令和6年度PLATEAU取組方針/活動計画

アジェンダ・活動内容に関するご提案・ご意見は事務局まで随時お寄せください

運営事務局・連絡先

- 下記事務局がお問い合わせ先になります。
  - コンソーシアム：（一社）社会基盤情報流通推進協議会（AIGID） plateau-office@aigid.jp
  - 分科会：国土交通省都市局都市政策課・都市計画課 hqt-mlit-plateau@ki.mlit.go.jp

事務局連絡

コンソーシアム入会(会員登録)

- PLATEAUコンソーシアムへの入会をご希望の方は、以下の2つの資料をAIGID(plateau-office@aigid.jp)までご提出ください
  - 入会届
  - 自治体ニーズシート/企業シーズシート

入会届

自治体ニーズシート/企業シーズシート

登録情報変更

- PLATEAUコンソーシアムに登録済で登録情報の変更が必要な方は、以下の資料をAIGID(plateau-office@aigid.jp)までご提出ください
  - 登録情報変更届

※入会・登録情報変更方法についてはPLATEAUコンソーシアムHPにも掲載

※ワーキンググループへの参加については、追って、コンソーシアム会員の皆様に募集のご連絡する予定